週刊 YEARBOOK

1934
昭和9年

日録20世紀

1|27
平成10年1月27日発行
(毎週1回発行)第2巻第3号
¥560
講談社

初のプロ野球「大日本東京野球倶楽部」結成
大スキャンダル!「春峯庵」贋作事件
中国紅軍「大長征」と"毛沢東の闘い"

「室戸台風」襲来!

“台風情報”を一変させた大惨事！
風速60メートル、中心気圧911.9ヘクトパスカル――
「室戸台風」、無防備状態の関西を蹂躙

▲台風一過、住居を失い青空の下で線路脇に仮住まいする罹災者も少なくなかった（大阪・春日出町）。 毎日新聞社

風速六〇メートルの突風、世界の気象観測史上で最も低い気圧をともなう最大級の台風が、日本列島中央部を蹂躙した。昭和九年九月に来襲した「室戸台風」である。死者・行方不明三二〇〇人余りという未曾有の被害を与えたこの台風は、膨大な犠牲者と引き替えに、防災対策の全面的見直しを迫るきっかけともなった。

暴風と高潮に襲われ京阪神地方に大被害

昭和九年九月二一日午前八時二五分、東京発下関行き東海道本線急行は滋賀県大津市の瀬田川鉄橋（全長二五〇メートル）にさしかかった。接近中の台風による大暴風雨をついての運行だった。だが鉄橋なかばで、突如、すさまじい突風が列車を襲い、車両は大音響とともに横転する。グシャグシャになった車内には頭部や胸部を押しつぶされた死体が折り重なり、悲鳴、うめき声、肉親を呼ぶ声が烈風の中にこだました。乗客約三〇〇人中死傷者一七五人、文字どおり阿鼻叫喚の地獄絵であった。

しかしこれは、被害のほんの一部にすぎない。四国から京阪神を直撃した台風は、富山地方までを蹂躙したのである。未曾有の被害を残したこの台風は、後に「室戸台風」と命名された。

「室戸台風」がフィリピン東海上で発生したのは、九月一五日だった。その後、台風は勢力を強めながら北上し、二〇日午後九時三〇分には種子島南方に迫っていた。同時刻のNHKラジオの漁業気象放送は次のように報じている。

▲倒壊した大阪・天王寺小学校。大阪の小学校では、児童676人、教員ら18人が死亡。

▼児童500人が校舎の下敷きとなった京都・西陣小学校の救助作業。 「歴史写真」（2点とも）

◎表紙　東海林太郎は、この年「赤城の子守唄」が大ヒット。以後「麦と兵隊」など戦時歌謡も数多く歌った。

“台風情報”を一変させた大惨事！
風速60メートル、中心気圧911.9ヘクトパスカル——
「室戸台風」、無防備状態の関西を蹂躙

▲水が引くと、布団を満載した新聞社のトラックが救援に（大阪・港区）。 毎日新聞社

樹も鎌で刈られた草のように地に伏した。

また、台風の目に入ったため、大阪の空は一瞬紺碧に晴れあがったが、それもつかの間、今度は高潮が市街地に襲いかかった。大阪港の海水が時速一三キロというスピードで、河川の上流へと殺到し、港から八キロも内陸に位置する大阪城まで到達した。三メートル、場所によっては五メートルの高波が、次々と人を呑みこんでいき、東淀川区の外島保養院では、約二〇〇人が命を落とした。

さらに大阪と高知を結ぶ一三〇〇〇トンの商船が、いとも軽々と水上署の玄関前に打ち上げられ、座りこんだかっこうとなる。多くの船舶が岸壁に跳ね上げられたり、碇綱を切られ、川を遡上して座礁するすさまじさだった。

しかし最も悲惨だったのは、学校の被害だった。大阪市では小学校の七割が古い木造建築で、その一七六校すべてが大被害を受けた。倒壊校舎は四四校を数え、しかも校舎は登校して来たばかりの児童でいっぱいだった。これらをはじめとして、関西を中心に四国、北陸を含めて死者・行方不明者三二四六人、負傷者約一万五〇〇〇人もの大被害をもたらしたのである。

室戸台風が残した多方面の災害対策

「私がかよっていた天王寺区の五条小学校も、台風の直撃を受けて全壊しました。突然大音響とともに柱が倒れて来て、私は柱と机の間にはさまれてしまったんです。幸い肋骨にひびが入った程度で助かったんですが、とてもおそろしかったことを、よくおぼえています」

当時小学生だったバイオリニストの辻久子さん（現・七一歳）は、当日についてこう語る。

「これほどの被害が出たのはもちろん台風が非常に強大だったせいもありますが、防災意識が低く、対策も整備されていなかったのが原因です」

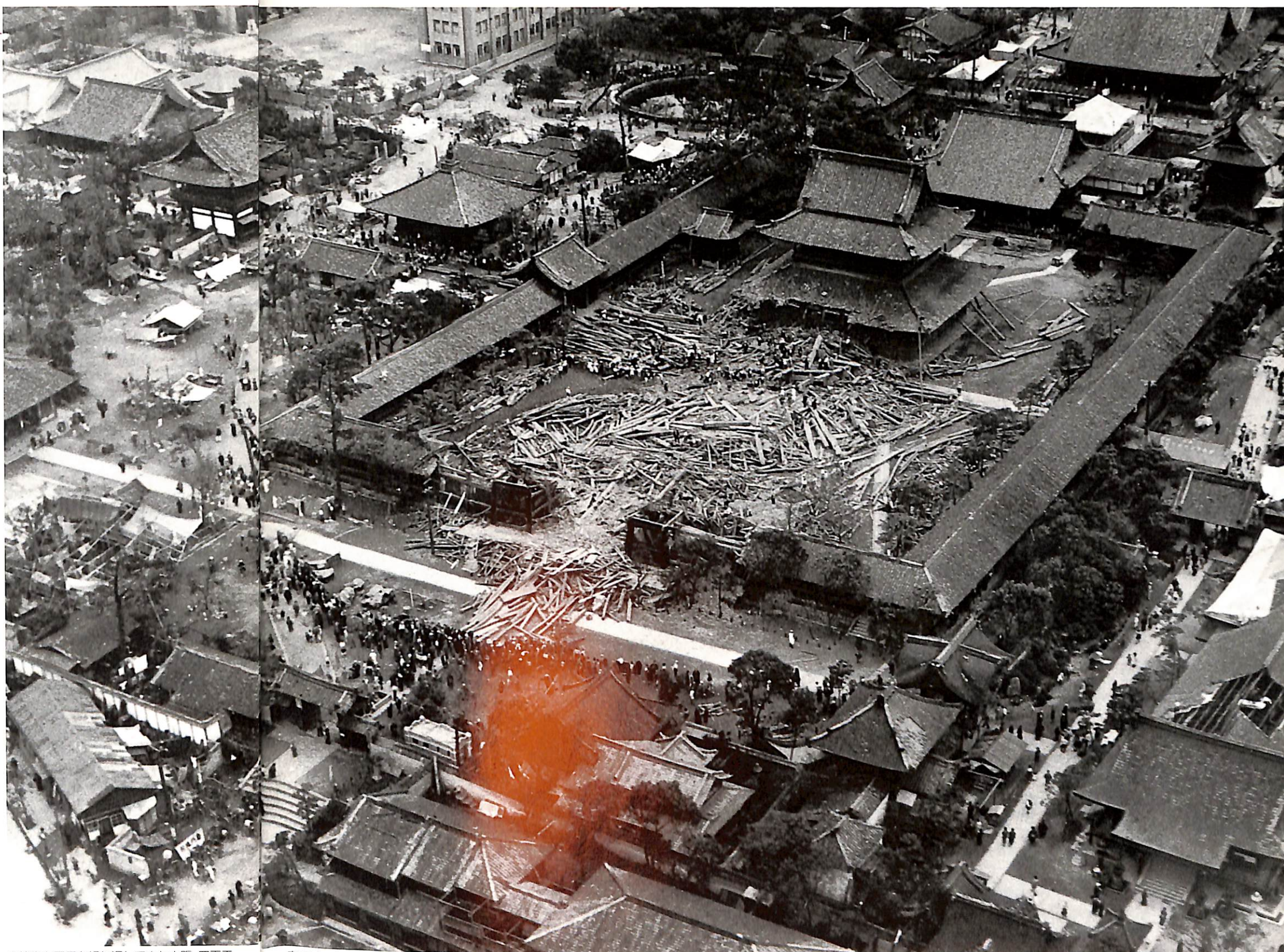
と、気象庁の饒村曜氏は言う。

「当時は本当に危険な時しか警報を出さなかったため、警報に対するなじみが薄く、軽視されがちでした。そこでこの『室戸台風』以後、今の注意報にあたる気象特報が新たに設けられたのです。大被害のおそれはないが注意を要する場合にラジオでこの気象特報を発することで、人々の防災意識を高めるのが目的でした」（饒村氏）

また、これを機に中央気象台は、台風の進路となる可能性の高い、室戸岬、八丈島、潮岬、硫黄島、南大東島などの測候所に無線電信設備をおいた。

「室戸台風」から二七年後の昭和三六年九月、よく似た規模とコースをたどった「第二室戸台風」が関西を襲う。この台風で「室戸台風」とほぼ同じ数の三八万家屋が浸水したが、死者・行方不明者は二〇二人と、「室戸台風」の一五分の一弱に激減した。人々は高潮をおそれていち早く避難し、前回惨事を起こした鉄道は運休、学校は休校したためだった。払った代償は大きかったが、同時に防災態勢、観測態勢、警報の出し方などを、根本的に変えるきっかけとなったのである。

朝日新聞社
▲暴風のため吹き寄せられた船。大阪港付近の岩崎橋下流にて。大阪市の流出・沈没船舶は、2112隻にのぼる。

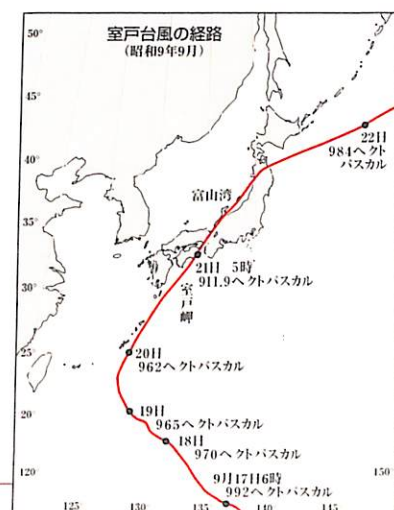
中央気象台編「日本気象災害年表」より

▲焼失と再興を繰り返してきた大阪・四天王寺では、仁王門と五重塔が吹き倒された。台風の余波が残る上空からの航空写真。 毎日新聞社

「台風の中心気圧は九六八ミリバール（ヘクトパスカル）程度、明朝、大阪湾方面に接近するとみられます。進路付近の漁船は厳重な警戒を要します」

そして翌二一日午前五時、台風は高知県室戸岬北に上陸し、その真の姿を現す。なんとその時点で、世界気象観測史上最低の九一一・九ヘクトパスカルに発達していたのである。中心付近の瞬間最大風速は実に六〇メートル、有史以来、最も大型の台風であった。

しかし測候所が命がけで観測したこのデータも、電線が寸断されたため、気象電報として送ることができなかった。そのため台風の進路にあたる関西地方は、ほとんど無防備でこの台風を迎えてしまったのである。大阪で特別の態勢を敷いていたのは、憲兵隊と水上署くらいであった。そして市民は、何の警告も指示もないまま、いつもどおり、生徒は学校に、サラリーマンは会社へと向かっていた。

大阪港で風速六〇メートルが記録されたのは二一日午前八時ちょうどから二分程度、その間に風速四〇メートルに耐える設計の送電塔が、針金細工をひねり曲げるように倒された。名刹・四天王寺の五重塔も、彼岸詣でに訪れた多くの善男善女を下敷きにして木っ端微塵になり、電柱、街路↖

室戸台風の経路
（昭和9年9月）
9月17日6時 992ヘクトパスカル
18日 970ヘクトパスカル
19日 965ヘクトパスカル
20日 962ヘクトパスカル
21日 5時 911.9ヘクトパスカル
室戸岬
富山湾
22日 984ヘクトパスカル
50° 45° 40° 35° 30° 25° 20°
120 125 130 135 140 145 150

日本初のプロ野球チーム結成！沢村、三原、水原、苅田、スタルヒン……「大日本東京野球倶楽部」に賭けた男たち

不世出のピッチャー、沢村栄治が、来日したベーブ・ルース、ルー・ゲーリッグら全米オールスターを相手に快投し、日本中を熱狂させた直後、わが国初のプロ野球球団が呱々の声を上げた。「大日本東京野球倶楽部」、後の東京巨人軍である。だが、後続球団は一年後まで生まれず、チームは対戦相手を求めて米国遠征に向かわざるをえなかった。

プロ野球選手第一号は年俸二〇〇〇円の三原

大阪・千里山で、早稲田大学野球部の先輩と後輩が額を合わせていた。先輩は「読売新聞」運動部長であり、目前に迫っていた全米オールスターチームと対決する全日本軍監督でもある市岡忠男（四二）。後輩は後に"智将"の名をほしいままにする名セカンド・三原修（二三）＝後に脩と改名）だった。

市岡は「三原君、日本で初の職業野球チームを作りたい。君に第一号選手になってもらえないか」と切り出した。日本でも大正以降、セミプロのチームはあったが、いずれも見せ物扱いで、みじめな結果に終わっていた。三原の脳裏にも、不安がよぎった。市岡がたたみかける。

「君の判は、社会に対する信用状だ。その契約書が他選手勧誘の決め手となる」

このひとことで三原は腹を決め、サインする。昭和九年六月一〇日のこと、日本初のプロ野球選手の誕生だった。三原は年俸二〇〇〇円、月給にして一七〇円弱、小学校教師の初任給が四五円、一〇〇〇円で一軒家が建つ時代だった。

第二号は、六大学出身の天才ショート、苅田久徳（二四）。さらに、中島治康（二三）、京都商業中退の快速球投手・沢村栄治（一七）、水原茂（二五）、V・スタルヒン（一八）らが続いた。報酬は三原、水原など社会人選手は月額にして一七〇円、大学選手一三〇円、中学選手一二〇円を基準として決められた。巷では彼らを「サーカスに身売りするようなもの」と見る向きもあった。だが、好きな野球で飯が食えれば、と決断したものたちによって「東京野球倶楽部」は結成された。

この年一一月の全米チームの来日は、昭和六年に続き二回目。「野球王」ベーブ・ルースなど空前の豪華メンバーをそろえていた。一行の人気は高く、東京駅でファンにもみくちゃにされ、丸の内広場に出るのに二〇分以上もかかるほど。全国で一八試合を闘った全米軍は全勝で日程を終えた。日米戦の白眉は、静岡・草薙球場での第一〇戦だった。全日本は零対一で惜敗したが、沢村が大リーガーから三振九個を奪う球史に残る快投を見せ、日本中を熱狂させた。

秘密裡に進められたプロ球団の創立準備

こうした野球人気の高まりは、プロ球団結成をめざしていた市岡や、後ろ盾の読売新聞社長・正力松太郎（四九）ら関係者に大きな自信を与えた。

▶米国遠征に向かう「秩父丸」船上で。後列右端がヴィクトル・スタルヒン、一人おいて苅田久徳、沢村栄治、市岡忠男総監督。後列左端から2番目が三宅大輔監督。前列右から4人目が二出川延明主将、その左が水原茂。全メンバー中7人が野球殿堂入りした。

佐藤英明提供

▶コンディションを維持するため、甲板上でストレッチングやキャッチボールを行う選手たち。

読売新聞社

毎日新聞社

▲市岡総監督の友人のはからいで、2等船客ながら1等の食事が出たという。

しかし日米野球と並行したプロ球団作りは、日米野球の終了まで、極秘で行われていた。もれれば、神宮球場の使用がむずかしかったためだ。明治天皇ゆかりの神聖な神宮球場で、営利目的の興行などもってのほか、という空気があったのである。実際、正力は、翌昭和一〇年、暴漢に襲撃され、重傷を負う。正力宛の“斬奸状”には「神域を汚した」と書かれていた。こうした風潮に、球場側は「読売新聞」側に、「日本チームはアマチュアで」という条件をつけた。

そのため、プロ球団の準備いっさいは、秘密裡に行われた。だが、発起人、賛同人には各界のそうそうたるメンバーが顔をそろえた。東京電灯社長・郷誠之助、大日本製糖社長・藤山愛一郎、伊藤忠商事社長・伊藤忠兵衛らである。発行部数五万部強の「読売」を、二〇万部近い有力紙に育て上げた正力の“アイディア商法”が高く評価されたせいでもあった。たとえば、無料招待券を配る「納涼博覧会」、日本初のラジオ番組表の新聞掲載などがそれだ。大リーグ招聘もそのひとつで、プロ球団創立も当然「読売」の部数拡大戦略の手段でもあったのである。

大リーガーの帰国を機に、一二月二六日、初のプロ野球チーム「大日本東京野球倶楽部」が正式に結成された。資本金は五〇万円、後の東京巨人軍である。だが、一球団では対戦相手にも事欠き、結局チームは米国遠征に向かう。昭和一〇年二月一四日、「秩父丸」で一行二〇人は訪米の途についた。「東京ジャイアンツ」というニックネームは、この航海中にできた。船舶無線で日米と連絡するためのコードネームが必要だったからである。

この遠征は、一二八日間に一〇九試合をこなすという過酷なスケジュールだった。訪問した都市が六三。朝飯、昼飯をともにバスの中ですませ、目的地の球場に直行、そのまま試合というハードさで、ゲーム中に居眠りする選手も出た。朝はコートが必要なバンクーバー、午後に到着したブレマートンは東京の八月の暑さ、という気候の激変も体験した。また、乗車券やホテル代は先払いだったが、食費は時として試合のギャラが頼りだった。「雨天中止」だと食事抜きもありえたのである。幸い絶食は避けられたが、綱渡りのようなツアーが続けられた。対戦相手はアマチュアが主だったが、八試合は現在の3Aにあたるパシフィック・コースト・リーグ相手で、六勝をあげた。全成績は七五勝三三敗一引き分けだった。

だが、この遠征で選手たちは、技術レベルの大幅アップをはたした。また、選手たちが目をみはったのは、どの球場にもナイター設備があり、芝のグラウンドが整備されていたことである。

国内で「大阪タイガース」（現在の阪神）、「名古屋金鯱」「東京セネタース」「阪急」「名古屋」「大東京」などが続々と名乗りをあげ、本格的なプロ球団同士の対戦が始まるのは二年後、昭和一一年のことだった。

▲昭和10年3月9日、シールズのF・オドゥール監督と歓談する二出川（後列右）、苅田（同左）、田部（前列右）、堀尾（同左）。 毎日新聞社

▲昭和11年のペナントレースは、東京巨人軍が大阪タイガースを下して優勝。洲崎球場にて。 読売新聞社

女たちの肖像

“国境を越えたロマン”騒動 エチオピア皇太子の妃候補 黒田雅子、夢と失意の変転

稲葉真弓

年が明けてまもない一月二〇日、各新聞は世紀のニュースを伝えた。「エチオピア皇太子の花嫁に黒田子爵の令嬢」。大見出しで書かれた「令嬢」なる女性は、当時二一歳の黒田雅子、相手はエチオピア皇帝の従弟、リジ・アリア・アベベ皇太子だった。日本ではいまだかつて外国の皇族と結婚した華族はいない。ニュースはたちまちセンセーショナルに伝えられ、「サンデー毎日」が「エチオピアはこんな国」と特集を載せたほか、デパートでは「エチオピア雛」まで売り出される熱狂ぶり。ことに若い女性たちの反応はすさまじかった。

黒田家には、女官にしてほしい、小間使いとして使ってくれという“同行嘆願書”がひきもきらず舞いこむ始末。一夜で日本一有名な女性となった当の雅子は、世間の熱狂ぶりにノイローゼ気味になり知人の家に身を隠さねばならないほどだったが、この華やかなニュースは、続く不景気、自殺・心中の流行などで暗く沈んでいた社会に“国境を越えたロマン”として明るい灯をともしたのだった。

縁談話は、そもそも皇太子側から発したものだった。昭和六年非公式で来日した皇太子が、日本女性を見てすっかり気に入り、妃の候補者選びを日本の知人に依頼。「朝日新聞」紙上でそれを知った雅子が父母に内緒で応募したところ、選考を経て、「お妃第一候補」にあげられたのである。

雅子はインタビューで「日本とエチオピアとの友好を深めたい」と国際結婚志願の心情を述べたが、この華麗なる結婚話は、当時エチオピアと険悪な関係にあったイタリアの猛烈な干渉のせいで四月初めに破談。傷心の雅子が世間の好奇の目に耐え切れず家出、行方をくらましたこともあり、またまた話題を呼んだ。

雅子は大正元年、千葉県久留里の旧藩主・黒田広志子爵の次女として生まれた。家の事情から幼少時を北海道ですごし、帰京後、関東高等女学校を卒業。お妃話が立ち消えになった後、朝鮮の富豪、蒙古の王族との結婚話がもちあがったりしたが、どちらも強硬に拒絶。よほどお妃事件に懲りたのだろう。人々の関心が薄れた昭和一一年六月、海軍技手の米倉冬彦と結婚した。

戦後は埼玉県大和町（現・和光市）で二男二女の母として平穏にすごす一方、町議を二期つとめ、平成元年一月死去した。

▲妃候補の応募者は、350人を突破。

勝者・敗者

「絶対に試合は止めるな！」ピストン堀口が血まみれで制した第一回全日本選手権

阿部珠樹

日本の近代ボクシングの歴史は、大正一〇年暮れの「日本拳闘倶楽部」の創設に始まると言われている。しかし、「日本拳闘倶楽部」ができても、ボクシング界の群雄割拠の情勢には大きな変化は現れなかった。「日本拳闘倶楽部」と対抗する団体「帝拳」との対立、関西の「大日拳」と関東勢の抗争など、混乱状態が長く続いたのだ。

権威を示すチャンピオンにしても、各ジムが独自に認定するありさまで、とてもたしかな値打ちがあるものと言えなかった。

こうした状況を変えようと、この年、昭和九年の一一月、「東京日日新聞」（現在の「毎日新聞」）と全日本拳闘連盟の共催で、第一回全日本拳闘選手権大会が開かれることになった。各ジムが独自に認定したり、アマとプロの違いがはっきりしない中で決められていたチャンピオンを、統一ルールのもとに認定しようという試みだった。

一一月五日の予選に始まり、二〇日間かけて、フライ、バンタム、フェザー、ライト、ウェルターの五階級のチャンピオンが決定される。四つの階級は特に問題もなくチャンピオンが決まったが、難航したのはフェザー級だった。この階級は、前の年の日仏拳闘対抗戦でフランスの前世界フライ級チャンピオンと引き分け、一躍ヒーローになった堀口恒男（二〇＝後のピストン堀口）が大本命だったが、堀口は準決勝で試合には勝ったものの、まぶたの上から激しく出血し、とても決勝を戦える状態ではなかった。

しかし、目玉商品である堀口の欠場は痛い。役員たちの無謀な出場要請を受けた堀口は、「出る以上は途中でTKO負けはいやだ、絶対に試合は止めるな」と要望を出し、小池実勝との決勝にのぞんだ。試合は予想通り堀口が出血し、凄惨をきわめたが、なんとか優勢を保ち優勝。ほかの四階級の王者とともに、初代の日本チャンピオンに認定された。この試合を契機に、昭和のボクシングは、「ピストン堀口」と歩調を合わせて進んでいくことになる。

毎日新聞社
▲認定された5人の初代チャンピオン。右から花田（フライ）、大津（バンタム）、堀口（フェザー）、鈴木（ライト）、名取（ウェルター）。

1月

◀東京宝塚劇場が開場（1月1日）少女歌劇が東京・日比谷に進出。地上6階、地下1階で収容人員は2810人。写真は人気の男役・小夜福子（左）と葦原邦子が出演した月組による柿落とし「花詩集」の終幕。

▼京都駅で群衆将棋倒し（1月8日）呉海兵団入営者を乗せた臨時列車の発車間際、殺到した百数十人の見送り人が折り重なって倒れ、77人が圧死。写真は惨事の凄惨さをものがたる遺留品、靴の山。

毎日新聞社

▶中岡艮一、12年ぶり出獄（1月31日）大正10年（1921）、テロにあこがれて東京駅で原敬首相を暗殺、無期懲役となったが3度の恩赦でこの日宮城刑務所を出た。写真左から3人目が中岡、右は母親。

「国際写真情報」／国際フォト

▼製鉄大合同、日本製鉄誕生（1月29日）官営八幡製鉄所と民間5社が一大国策トラストを形成。ふえる鉄鋼の軍事需要にこたえた。写真はこの頃の八幡製鉄所。

新日鐵八幡製鉄所提供

朝日新聞社

▲坂本龍馬・中岡慎太郎の銅像建立（1月15日）大政奉還の立て役者だった二人が暗殺された京都・塩屋町近くの円山公園に設置。山本白雲の制作。除幕式には龍馬の後裔・弥寿子ちゃん（11）ら関係者も出席した。

朝日新聞社

◀「満州国」帝政へ（1月20日）東京・麻布の公使館で丁士源公使（左）が記者団に発表。3月1日、「清朝復活」を望んだ溥儀が皇帝に即位したが、実権は関東軍が掌握、溥儀の夢はついえた。

昭和9年1月

1（月）●東京宝塚劇場開場。定員二八一〇人。
2（火）●綿花と綿布の日印会商が合意（5日仮調印）。
3（水）●名古屋・中村遊郭、三カ日で客二万七六二四人。
4（木）●新潟県西部の積雪が五㍍超え家屋損壊が続出。
5（金）●法政大の教授四七人、野上豊一郎予科長復帰を要求し辞表提出（14日三六人を解職）。
6（土）●インド政府、綿布関税引き下げを通告。
7（日）●霧ケ峰スキー場、ボブスレーコース新設決定。
8（月）●京都駅で入営見送り人が大混乱、七七人圧死。
●米連邦大審院、カリフォルニアの排日移民法は違憲として提訴していた日本人に勝訴判決。
9（火）●代々木練兵場で八万人が在郷軍人大会を挙行。
10（水）●東京・南山小に初の弱視学級開設、と新聞に。
11（木）●講道館で初の女子有段者三人の昇段式。
12（金）●日本沃土（現・昭和電工）、初の国産アルミニウムの本格的生産に成功。
●日本放送協会、第一回全国アナウンサー採用試験実施。二五人採用に、七二八人応募。
13（土）●チャップリンの映画「街の灯」封切。
14（日）●第一回「全国ラヂオ青年雄弁大会」を全国中継。
15（月）●小畑達夫殺害の共産党スパイ査問事件が発覚。
16（火）●三河湾の漁民二千余人、人造羊毛工場建設で水質汚濁、と誘致した豊橋市に抗議文提出。
17（水）●「時事新報」で、財界の不正を暴露する「『番町会』を暴く」の連載開始（帝人事件の発端）。
18（木）●天然痘発生の東京・向島区で、警視庁と市衛生課が二万六〇〇〇人に強制種痘を実施。
19（金）●日本で募集していたエチオピア皇太子妃候補に黒田雅子決定（4月イタリアの反対で破談）。
20（土）●富士写真フイルム設立。社長・浅野修一。
21（日）●作家・中条（宮本）百合子検挙される。
22（月）●空母「赤城」での着艦訓練中、艦上機が墜落。
23（火）●陸相に林銑十郎、教育総監に真崎甚三郎就任。
24（水）●宮内省、松浦伯爵家の浅草の蓬莱園を同家の経済逼迫から世襲財産解除（売却）を許可。
25（木）●東京市電、女子車掌二〇〇人の採用試験実施。
26（金）●独・ポーランド不可侵条約、調印。
27（土）●独映画「会議は踊る」封切。
●帝人、退社した三人を産業スパイとして告訴。
28（日）●東京の地下鉄工事現場で土砂崩落、四人死傷。
29（月）●日本製鉄（現・新日鐵）設立。官営八幡製鉄所と釜石鉱山など民間五社が合併。
30（火）●東京で小市民税反対団体協議会結成。
31（水）●陸軍初の少年航空兵合格者一七〇人が決定。

ニュース・ファイル 1934

フォト＋日録で再現する365日

「満州国」皇帝に溥儀が即位、内外に帝国成立をアピールした。その満州（中国東北部）に世界に誇る特急「あじあ号」が走った。干ばつ・室戸台風・冷害下の農村をよそに、都市は軍需景気に沸いた。恐慌を脱しつつある日本の姿と、「あじあ号」の快走が重なって見えた。

◀特急「あじあ」号発進（11月1日）満鉄が大連―新京（長春）間で運転開始。欧米並みの標準軌間の上をパシナ型機関車で牽引して最高時速110キロ。展望車接続、冷暖房完備の豪華さで「満州国」の象徴となった。

毎日新聞社

アメリカ国立公文書館／毎日新聞社

▲フランスで反ファシズムゼネスト(2月12日)対立していた社共両党が結束、労働総同盟と統一労働総同盟傘下の100万人が参加し、24時間ストを決行。翌年6月の人民戦線結成への契機となった。

毎日新聞社

▲仮住まいの築地魚河岸(2月)前年12月に東京卸売市場本場が完成したが、卸売人の資格問題でもめる魚市場組合員は入場を拒否、仮設バラックで営業。入場は翌年11月まで遅延した。

▼東京市バスにサービスガール(2月1日)人気挽回のため高女出の7人の美女をそろえ、混雑の整理、子どもの世話などをさせた。この頃市営バスの収入は、民営の約3分の1で大赤字だった。

共同通信社

▼「女中さん」養成講座(2月14日)東京・本所の愛国婦人会隣保館で実施。「女中さん」希望の地方女性のため。ガス使用のごはんの炊き方など仕事に必要な心得を5日間で修得させた。

毎日新聞社

▲「肉弾三勇士」銅像建立(2月22日)東京・芝の青松寺で除幕式が行われ、集まった人々は昭和7年のこの日に上海で戦死、以降「軍国美談」となった「英雄」の再現にさかんな万歳を捧げた。

◀地下鉄・銀座駅開業(3月3日)銀座4丁目交差点地下に完成。これで銀座—浅草間が接続。浅草までの時間14分半は市電25分、バス20分を凌駕。運賃は両者の倍以上だったが、利用者は多かった。

朝日新聞社

昭和9年2月

1(木)●日比谷映画劇場、開場。五〇銭均一興行。
●大阪で初のタクシー料金メーター制開始。

2(金)●福島繁太郎コレクション展、日劇四階で開催。ピカソ、ルオー、セザンヌなど三七点。

3(土)●衆院予算委で中島久万吉商工相の随筆「足利尊氏」が「逆賊賛美」と追及される(9日辞任)。
●「五・一五事件」民間人被告・橘孝三郎に無期懲役など重刑判決(軍人の最高は禁固一五年)。

4(日)●東京・品川で防空ページェント。観衆七万人。

5(月)●新潟県河内村で雪崩に埋まった飼い主を猟犬が掘り出し救助(後に新潟駅に銅像建立)。

6(火)●ベルリン政治大学が日本研究科の設置を決定。

7(水)●岡山市興行組合、興行税新設に抗議し興行場閉鎖を決議。三月から岡山は劇場のない町に。

8(木)●内務省、多摩川の砂利の無断採取を禁止。

9(金)●ギリシャなど四ヵ国、バルカン協商に調印。

10(土)●小唄勝太郎ら「さくら音頭」(ビクター)発売。

11(日)●皇太子誕生の恩赦公布。浜口首相狙撃犯の佐郷屋留雄が死刑から無期など、四万人が該当。

12(月)●フランスで反ファシズム二四時間ゼネスト。

13(火)●内務省、八年一一月の失業者三九万人で前年同月比一一万人(二二㌫)減と発表。

14(水)●ローソップ島での皆既日食観測隊、観測成功。

15(木)●東海林太郎、「赤城の子守唄」を発表。

16(金)●英の自転車・オートバイ業者協会、日本製自転車はダンピングだとして不修理・不買を決議。

17(土)●千葉県の女性教員による研究会、体育振興に「ガッチリ太った娘」を美人表彰すると決定。

18(日)●小泉八雲記念館が松江市に完成。

19(月)●経済学者で共産党員の野呂栄太郎、東京・品川署の拷問で虐殺される。三四歳。

20(火)●岡山県教育疑獄事件の記事解禁。校長就任など人事をめぐる贈収賄で校長ら三八人起訴。

21(水)●静岡県下田町役場で開港当時の古文書を発見。

22(木)●東京の青松寺で「肉弾三勇士」の銅像除幕式。

23(金)●大阪市、「丁稚」にも退職手当支給と決定。

24(土)●文部省、初の国策トーキー映画「皇国の栄」を試写(26日常設館への無料貸与を開始)。

25(日)●早大の山本忠興教授がテレビジョン研究室で黄色をのぞく天然色の映出に成功、と新聞に。

26(月)●日本刀の男が、大臣室の鳩山一郎文相を襲う。

27(火)●東京・神田の小学校教師が「理想どおりに成績が上がらない」と授業中に自殺をはかる。

28(水)●早稲田中学で教師留任求め試験ボイコット。

朝日新聞社

◀函館で大火(3月21日)30メートルの強風にあおられて12時間燃え続け、市街の3分の1約2万4000戸を全焼、650人が焼死。吹雪の中を逃げまどう385人が凍死という大惨事となった。写真は焼野原と化した市街。

▼最新鋭の水雷艇「友鶴」転覆(3月12日)五島列島沖の夜間訓練中の事故で、乗員100人が殉職。海軍が軍縮条約下に過大な兵装を要求したため、激浪に対する艦艇の復元力不足が原因だった。写真は「友鶴」乗員の救助作業で、12人が救助された。

▼前鐘紡社長・武藤山治、射殺(3月9日)東京へ出勤途中狙撃され、翌日死亡した。「帝人事件」との関連が言われたが、犯人は自殺、真相究明はならなかった。写真は北鎌倉の現場。

朝日新聞社

毎日新聞社

防衛研究所図書館提供

▲松旭斎天勝が引退(3月18日)美貌とグランド・マジック風の舞台作りで人気を博した奇術界の女王(49、中央)で、見おさめ公演が新橋演舞場など各地で催された。

▶「タンク抹消の事」(3月10日)新聞連合社配信の代々木練兵場での陸軍記念日演習の写真につけられた注記。タンクは石油不足を補うディーゼル式で「軍機」だった。

「歴史写真」

◀「帝冠様式建築」の軍人会館落成(3月25日)東京・九段に、洋風建築4階建てに和風屋根を載せた建物が出現。在郷軍人会が出資し、川元良一が設計。昭和初期に流行した建築様式の代表的なものとなった(現・九段会館)。

昭和9年3月

1(木)●「満州国」、帝政を実施。溥儀が皇帝に即位。年号を大同から康徳に改元。

2(金)●東京市青年連合団が新聞雑誌の「御尊影」で包装しないよう切り抜いて奉納を提唱と新聞に。

3(土)●鳩山文相、樺太工業の汚職疑惑のため辞職。

4(日)●東京鉄道局職員(日給五五銭)採用試験実施。千余人募集に受験者三万余人。

5(月)●統制派の永田鉄山、陸軍省軍務局長に就任。

6(火)●警視庁、前年の自殺総件数二五五一件、うち二五歳以下が一六四四件と発表。

7(水)●花王石鹼、洗濯用洗剤「ビーズ」を発売。粉末とは異なり中が空洞の粒で特許製品。

8(木)●内地米の生産費は外地米の六割高と農林省。

9(金)●鐘紡前社長・武藤山治、北鎌倉で狙撃され、翌日死亡。犯人・福島新吉はその場で自殺。

10(土)●中西悟堂ら「日本野鳥の会」を結成と新聞に。

11(日)●神奈川県水産会、相模湾に「魚のアパートに」と、払い下げの廃艦「楓」を沈める。

12(月)●海軍水雷艇「友鶴」、五島列島沖で転覆、一〇〇人死亡。軍縮条約逃れの過大兵装のため。

13(火)●警視庁が工場事故防止に日本髪厳禁と新聞に。

14(水)●貴族院で三上参次が英語の授業削減を主張。

15(木)●ソ連国境警備隊、スパイ容疑で日本漁船抑留。

16(金)●瀬戸内海、雲仙、霧島を初の国立公園に指定。
●東郷青児、宇野千代、広津和郎ら賭博で検挙。

17(土)●東京でビール値上げ。エビス・キリン三四銭。

18(日)●築地署、銀座で一斉手入れ、街娼二六人を検挙。

19(月)●山口県厚狭町の日本火薬工場でニトログリセリン三〇〇〇㌔が爆発。建物多数が倒壊。

20(火)●貴族院で丸山鶴吉らが右翼取締り不徹底追及。

21(水)●函館市で大火、市街がほぼ全滅。死亡・行方不明二七一六人、二万四一八六戸が全焼。

22(木)●文部省、国号を「ニッポン」とする案を提出。

23(金)●函館大火に三井・三菱五万円、住友三万円寄付。

24(土)●米、一〇年後のフィリピン独立を承認。

25(日)●東京工大染料化学科で初の女性工学士誕生。
●在郷軍人会の軍人会館(現・九段会館)落成。

26(月)●三木武吉、贈賄幇助が確定し代議士資格失う。

27(火)●松竹少女歌劇学校の第一回卒業式挙行。

28(水)●石油業法公布。業者の貯油を義務づけ。

29(木)●臨時米穀移入調節法公布。米価安定のため朝鮮・台湾米の内地移入を数量規制。

30(金)●東京市会、女中税など新増税案を可決。

31(土)●日本航空学会、発会。会長に横田正午。

朝日新聞社

▶**新兵器が一望できる国防館公開(4月22日)**東京・九段の靖国神社境内に新設(現・靖国会館)。陳列された新鋭飛行機や大砲の体験操作や、軍事映画上映など国防思想普及の拠点になった。

◀**忠犬ハチ公の銅像建つ(4月21日)**亡き主人の東大教授・上野英三郎を待って、10年間駅にかよった〝美談〟に感動した人々が、寄付金を募った。写真は除幕式。東京・渋谷駅前が子どもで埋まった。

▲**帝人事件で社長・高木復亨逮捕(4月18日)**帝人株売買による贈収賄を問われ、後に政財界人17人が逮捕され、7月には斎藤実内閣が倒れた。しかし昭和12年に無罪判決。事件は平沼騏一郎ら右翼の陰謀と言われる。

▲**仏政府、トロツキーを追放(4月17日)**1929年来滞在を許可していたが、第4インター結成計画が発覚したもの。写真は官憲の捜索を受けたパリ郊外の隠れ家。

▶**天王寺動物園拡張(4月4日)**猿山などを新設。同園は大阪・天王寺公園内に大正4年開園、以来市民の人気を集めてきた。写真は祝賀式での関一市長と人気者・チンパンジーのリタ嬢。

「歴史写真」

昭和9年4月

1(日)●送受話器一体型の「三号電話機」、使用開始。●帝都電鉄(現・京王帝都)、渋谷—吉祥寺間開通。●東京・山口貯水池(狭山湖)の完工式挙行。
2(月)●法隆寺、昭和の大修理に着手(~昭和60年)。●陸軍開発の新自動車、宣伝兼ね試運転に出発。
3(火)●反メーデーの第一回日本労働祭開催。●相次ぐ教育界の不祥事に小学校教員三万六千余人が、宮城前広場で精神作興大会を開催。
4(水)●日活の鈴木伝明、米映画に主演と決定。
5(木)●テニス世界ランキング三位の佐藤次郎、デ杯へ向かう船からマラッカ海峡で投身自殺。
6(金)●第一回女医学会総会開催。女医三〇〇人出席。
7(土)●ガンジー、第二次非暴力抵抗運動の停止宣言。
8(日)●全国労働大阪連合会、日本の労働条件はいまだ劣悪と国際労働会議からの脱退反対を声明。
9(月)●「満州国」のマニラでの極東競技大会参加問題で日中比三国会議(10日「満州国」参加を否認)。
10(火)●中国共産党、「全国民衆に告げる書」を発表。反日統一戦線・抗日救国の六大綱領を提示。
11(水)●三菱造船所、三菱重工業と改称(6月13日三菱航空機を吸収合併)。
12(木)●東京鉄道局、駅頭俗悪広告の即時撤去を命令。●日本プロレタリア文化連盟(コップ)解散。
13(金)●神社制度調査会、公費での神社維持を答申。
14(土)●大阪府特高課、グリコの景品「恵比寿大黒天人形」一五万個を大人の好奇心あおると押収。
15(日)●陸軍三長官会議、実弟が疑獄事件連座のため辞表を提出した林銑十郎陸相の留任を決定。
16(月)●東大医学部で初のスポーツ医学特別講座開講。
17(火)●仏政府、滞在中のトロツキーを国外追放。
18(水)●高木帝人社長、背任容疑で逮捕(帝人事件)。
19(木)●英商業会議所、日本品進出阻止決議を採択。
20(金)●日本初のパイプ用刻みタバコ「桃山」発売。
21(土)●東京・渋谷駅前で忠犬ハチ公の銅像除幕式。
22(日)●静岡県下田町で日米修好八〇年の黒船祭挙行。
23(月)●嘉納治五郎、五輪東京招致のためアテネへ。
24(火)●東京・神田明神の本殿再建工事終わる。
25(水)●吉本興業、東京進出し特撰漫才大会を開催。
26(木)●二〇年で三〇〇万人の満州移民会社計画決定。
27(金)●新京神社で「満州事変」以来の戦没者招魂祭。
28(土)●拓務省、治安が安定したとして農地貸与会社設立など満州(中国東北部)移民計画策定開始。
29(日)●恩賜財団愛育会(現・母子愛育会)発足。
30(月)●米で人絹値下がりし、生糸市場が大暴落。

証言・あの日この日
寺田寅彦(56)

9月某日 〈日本の時代ものの映画でおもしろいと思うものにはめったに出会わない。たいていは退屈でなければ冷や汗の出るようなものである。しかし近ごろ見た「一本刀土俵入り」だけはたしかに退屈せず気持ちよく見れた〉
(寺田寅彦『寺田寅彦随筆集』第五巻)

漱石門下の科学者で、随筆家としても知られる寺田寅彦は無類の映画好きだった。研究で疲れるとリフレッシュするために映画館へ直行した。この頃寺田が観た映画は、洋画から日本映画、マンガ映画、怪獣映画にいたるまで、相当な量におよんでいる。しかも彼は、映画評論まで執筆し、印象批評ではなく技術批評を提唱し、科学者らしくトーキーの技術にまで注文をつけている。当時、映画はトーキーへの転換期で、弁士・楽士の失業が相次ぎ、スト騒動まで起きていた。　(山崎行太郎)

杉野ドレスメーカー学院提供

▲**「5円以下でできる夏のドレス」(5月15日)**『婦人公論』6月号が懸賞募集の当選作を発表。あわせて東京・銀座三越が展覧会を開催した。写真は優秀作の自作品を着る女学生。

「歴史写真」

◀**ピストン堀口(19)、雪辱(5月1日)**前年11月に挑戦し引き分けた、フィリピンの世界バンタム級王者ヤング・トミーと再戦。ノンタイトル戦ながら堀口の攻勢に満員の両国国技館は沸き、7回に相手の反則で勝利をおさめた。

▲**柔剣道の天覧試合(5月5日)**皇太子生誕を記念、宮城内済寧館で前日予選を行い、勝ち抜いた府県選士らが、天皇臨席のもと技を競った。剣道は東京の野間恒(左)が優勝。

川喜多記念映画文化財団提供

▶**仏映画「にんじん」空前のヒット(5月3日)**ルナールの名作をJ・デュビビエ監督が映画化。ロベール・リナン扮する主人公の苦難の人生が、観客の琴線に触れた。

▶**観光でにぎわう表六甲自動車道(5月)**昭和2年に阪急六甲から山上まで開通。前月、拡幅工事が竣工し、阪急バスによる遊覧が人気を集めた。しかし13年の水害で崩壊、31年有料道路が完成するまで車両交通はとだえた。

朝日新聞社

昭和9年5月

1(火)●国鉄、北海道・九州めぐり乗車券(周遊券)発売。
2(水)●出版法改正公布。レコード検閲が始まる。
3(木)●J・デュビビエ監督「にんじん」封切。
4(金)●海運好況で日本郵船が三年半ぶり配当を復活。
5(土)●東京・井の頭公園に動物園開園。
6(日)●東京の赤ちゃん大会で、初めて人工栄養(米の摺り粉など)の子が八等に入選。
7(月)●電力連盟、火力発電拡充方針を決定。
8(火)●東京市、多摩川に鮎の稚魚二万匹を放流。
9(水)●東京と近県の中学生一万人が、多摩川周辺で近衛師団などと二四時間合同演習を実施。
10(木)●共産党スパイ査問事件(1月15日)に関連し、この日までに党員ら七三六人逮捕し記事解禁。
11(金)●転向した佐野学・鍋山貞親ら五人に二審判決。無期を一五年など一審刑を大幅減刑。
12(土)●極東選手権競技大会、マニラで開幕(~21日)。
13(日)●日満両軍、吉林省の謝文東軍への総攻撃開始。
14(月)●農林省、一二県一六カ所に農村の中堅指導者養成を目的に農民道場設置を決定。
15(火)●日本航空輸送、東京—富山間の定期運航開始。
16(水)●自殺急増、五月の心中が二十余件と新聞に。
17(木)●大阪の新都市計画橋の天神橋が開通。
18(金)●羽田で米旅客機を試験、着陸失敗し胴体切断。
19(土)●大蔵次官・黒田英雄、帝人事件で検挙される。●エルサルバドル、「満州国」承認。日本以外で初。
20(日)●癌研究会、癌研究所を開所。所長・長与又郎。
21(月)●警視庁、歌麿・豊国らの浮世絵贋作犯九人を取り調べ(春峯庵事件)。●イラクのキルクーク油田とパレスチナのハイファ港の石油パイプラインが完成(英社所有)。
22(火)●帝人事件で大蔵省人事異動。主計局長に賀屋興宣、銀行局長に川越丈雄など。
23(水)●米の強盗犯ボニーとクライド、射殺される。
24(木)●五年の一人当たり国民所得一六五円と統計局。
25(金)●三カ月紛糾したソ連漁区競売、再入札で終了。
26(土)●三重県長島—桑名間に伊勢大橋開通。
27(日)●帝国飛行協会が全国三〇〇カ所に愛国飛行場設置運動を計画、と新聞に。
28(月)●沼津繭取引市場で初取り引き、安値で終始。
29(火)●東京・渋谷で犬に噛まれ顔に負傷した女性が、五〇〇〇円の損害賠償求め飼い主を提訴。
30(水)●東郷平八郎、死去。八八歳(6月5日初の国葬)。
31(木)●海軍少将・坂野常善、海軍は政局不干渉と言明。陸軍など抗議(翌日海軍省役職を解職)。

6月

朝日新聞社

◀アジア航空学校に女子部創設（6月14日）パイロットやパラシューターなどを志す女性がふえてきたため。民間では初めてで、東京・洲崎飛行場の校庭で初顔合わせが行われた。

▼秩父宮雍仁親王、「満州国」軍閲兵（6月8日）天皇の名代として新京（長春）宮廷府で、皇帝・溥儀に天皇の親書と大勲位菊花大綬章を捧呈。この日、溥儀とともに「満州国」軍の観兵式にのぞんだ。

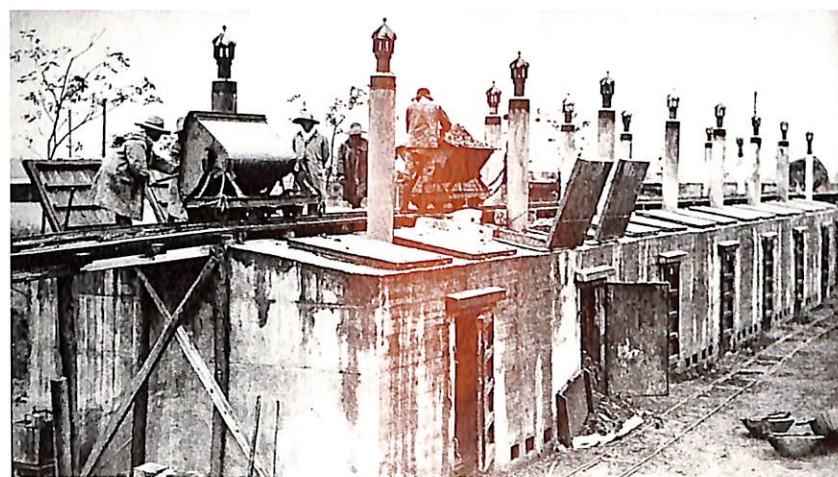
朝日新聞社

ROGER-VIOLLET/ユニフォト・プレス

◀ベアー、カルネラをＴＫＯ（6月14日）ニューヨーク郊外で行われたボクシング世界ヘビー級選手権戦で、イタリア人王者・カルネラが、11R、アメリカの挑戦者・ベアー（左）の強打に屈した。

▶自動車製造、日産自動車に改称（6月1日）前年、新興財閥・日本産業が自動車会社を設立、この日の改称を機に国産車の量産を開始した。写真は横浜工場の「ダットサンセダン」1号車の完成記念。

日産自動車提供

◀東京市、生ゴミを再生（6月）前年7月から、燃えるゴミ（雑芥）と生ゴミ（厨芥）の分別収集を実施。生ゴミはこの月から深川塵芥処理工場の写真のような通気式発酵装置で堆肥にし、農家に払い下げた。

朝日新聞社

▶東郷平八郎元帥、初の国葬（6月5日）日比谷特設斎場で挙行。明治38年の日本海海戦で、ロシアのバルチック艦隊を破った連合艦隊司令長官。5月30日、喉頭癌などのため死去。88歳。

読売新聞社

昭和9年6月

1（金）●日本放送協会、台湾と満州向け短波放送開始。
●自動車製造、日産自動車と改称。

2（土）●国際絹業連合会、日本品の進出阻止を決議。

3（日）●陸軍浜松飛行学校、開校式を挙行。

4（月）●羽田漁業組合、味の素に工場汚水改善を要求。

5（火）●京都東福寺派管長・尾関本孝、失踪（22日発見）。

6（水）●蓑田胸喜、東大教授・末弘厳太郎を治安維持法違反・不敬罪などで告発（11月不起訴処分）。

7（木）●藤原歌劇団、第一回公演「ラ・ボエーム」上演。
●東京市電、少年車掌の乗務を廃止。

8（金）●貴族院議長・近衛文麿、ワシントンでルーズベルト大統領と中国問題で会談。

9（土）●武装共産党委員長・田中清玄に懲役一五年。

10（日）●エンタツ・アチャコ、大阪放送局の南地花月寄席中継に「早慶戦」でラジオ初出演。

11（月）●京浜国道に初の押しボタン式信号機を設置。

12（火）●英議会、南ア連邦地位法可決。独立国と規定。

13（水）●日本製マグロ製品輸入割当の日米会商決裂。

14（木）●ヒトラー、伊訪問しムッソリーニと初会見。
●東京のアジア航空学校に女子部新設。

15（金）●国際労働会議、週四〇時間労働条約草案採択。

16（土）●海洋少年団が一万二〇〇〇カイリの南洋航海計画。

17（日）●東京品川で初の大学対抗ヨットレース開催。

18（月）●初の全国児童保護大会、母子心中防止を決議。

19（火）●東京市、公金横領対策に信用保険制度を採用。

20（水）●東京―台北間で初の外地無線電話が開業。

21（木）●陸軍省がカーキ色を国防色とし被服統一運動を始める、と新聞に。

22（金）●東京巣鴨署、門付遊芸人の管内立入を禁止。

23（土）●鉄道省、列車の高速化で弁当入手が困難になったため車内販売を許可（12月1日実施）。

24（日）●警視庁、疫痢予防で内服薬六三万人分を配布。

25（月）●東京の築地本願寺完成。インド式寺院建築。
●六代目尾上菊五郎の「鏡獅子」、海外紹介のためトーキーに収録。構成、小津安二郎。

26（火）●文部省、図書推薦の良書普及協議会を開催。
●閣議、海軍三学校の修業年限を四年に延長。

27（水）●東洋レーヨン、高級人絹糸生産を五〇パーセント増産。

28（木）●大都市中心に注文品を速配する新商売「便利屋」増加。神田駅には一五〇人待機と新聞に。

29（金）●農林省、飯米飢饉救済のため政府保有米の払い下げを各県に通牒。

30（土）●ヒトラー、レームら突撃隊（SA）幹部を粛清。
●第一回全日本レスリング選手権大会開催。

「現場」を歩く 西巣鴨

東郷元帥の癌死でようやく態勢が整った"癌研"六四年の成果

山本徹美

▲機構は、研究所、病院、癌化学療法センターなどに分かれている。 但馬一憲

昭和九年五月二〇日、東京・西巣鴨（現・上池袋）に癌研究所と付属病院が落成した。癌の専門研究医療施設としては、わが国初。運営母体である財団法人癌研究会が開所式を挙行した。建設費二七万円は寄付と募金によってまかなわれた。

癌研究会の設立は、明治四一年。その後、帝国議会に三回補助申請をしているが、「結核が国民病である。癌などたいしたことはない」（安達謙蔵内務大臣、昭和四年）と却下され、施設建設は実現にいたらなかった。

当時の「東京朝日新聞」は、「自慢は放射線室、四万円のラヂウムもまだ貧弱と所長の嘆」と報じたが、最先端治療をほどこそうにも、かんじんのラジウムが不足していた。長与又郎所長（五五）は、「せめて一グラム位はほしいものだ、いくらこの研究所の宝でも百ミリグラムでは情けない」と同紙に談話を寄せている。

一般的に癌への関心は低かった。そこへ、一気に国民の関心を高める報が流れた。癌研開所後一〇日目にあたる五月三〇日、東郷平八郎元帥が喉頭癌で死亡したのだ。ラジウムがたりないため充分な照射ができなかった。それを聞いた三井報恩会が同年八月、ラジウム五グラムと付属器具一式、約一〇〇万円分を寄付。ようやく態勢が整う。

「癌は治せる」の裏付け

上池袋にある癌研究所を訪ねてみた。昭和九年に建造された施設は東京空襲で焼失、現在あるのは三八年完成の北棟と五二年完成の南棟。研究所を含めた施設全体の延面積は約三万八五〇〇平方メートルで、戦前と比較すると一〇倍増である。

入院経験のない私などは、「癌」と聞いただけで暗い気分におちいってしまうが、病棟内を歩いてみて、患者の表情が意外にも明るいので驚いた。

総務課の岩崎孝和課長に聞いてみる。

「かつては不治の病とおそれられた癌も、今では五割以上治ります。当院ではほとんどの患者さんに癌告知しています」

癌研で治療を受けた患者の五年生存率は六二パーセント、一〇年生存率は五二パーセントというデータ（平成六年）がある。戦後「国民病」と認定された胃癌も、早期発見、治療によってほぼ完治。背景には、ここで開発された内視鏡、胃カメラなど先端器具と化学療法など研究の成果がある。

「癌研は、国立の官僚組織ではなく、研究者は互いに協力し、学閥を作らず、患者一人に全科の英知を結集しています。反面、財政面では苦しく、年間予算約二〇〇億円のうち約一割は、日本自転車振興会など補助団体の支援によって支えられています」（前出・岩崎課長）

最近では遺伝子レベルでの研究が進められている。特定の遺伝子を欠損させた実験動物ノックアウトマウスを開発、大腸癌の発生メカニズムはほぼ解明された。私もいざその時には「なぁんだ、癌か」と、気軽に手術室へ向かえそうだ。

▲開所時の癌研究所。所長は東大医学部長・長与又郎。作家の長与善郎は、その末弟にあたる。

ベストセラー
中原中也の詩集『山羊の歌』時代の流れに抗して刊行

◀「早稲田文学」(50銭)

戦時色が次第に濃厚になりつつあった時代に、第三次「早稲田文学」が創刊された。その創刊の辞に、あえてこの時期に刊行することの意義と、その覚悟のほどが示されている。「時代思潮の動向に常に密接な関係を保つと共に、徒らに流行を追はず、常に穏健中正な批判を試むる事は我等の当面の用意であり、広く人材を求めて卓越せる作家批評家を文壇へ送る事は我等の誇るべき任務である」と。そして編集後記では、第一次、第二次と違って経営販売まで編集者が担当しなければならないと、その困難な実態を訴え読者の支持を求めた。目次には、谷崎精二の「谷崎潤一郎論」や、新庄嘉章「ジイドへの関心」、青野季吉「生活と創作の関係」などの評論のほか、正宗白鳥、尾崎一雄、宇野浩二らの創作がずらりと並び、壮観だった。

また、詩人・中原中也の第一詩集にして生前唯一の詩集となった『山羊の歌』が、この年、文圃堂より刊行された。高村光太郎の装丁による四六倍判箱入りの、堂々たる詩集だった。"サーカス""春の日の夕暮"などを含む「初期詩篇」のほか、"汚れつちまつた悲しみに……"や"妹よ"などを含む詩集で、その推薦文で河上徹太郎は次のように書いている。

「中原中也の詩は驚くべき宇宙的な野望を実現してゐる、彼にあつて詩とは世界から何ものかを窃盗することではなくて、自我の価値を直接に世界の中に求めることである。私は彼に於て初めて正しい抒情詩が邦語で歌はれたのを認める」

このような注目すべき詩集だった。

翻訳でも、時代の流れと関係なく、ルナールの『にんじん』が岸田国士の翻訳で前年に刊行され、この年ベストセラーになった。憎しみが底流にあるような、おそるべき母子関係を中心とした家族の様子が、淡々と描かれていた。各章のタイトルにイラストが入った、親しみやすい体裁になっているが、どっこい中身はシビアで時には残酷ささえ感じさせるもので、不思議な本だった。

▲『山羊の歌』(三円五〇銭)

日本近代文学館提供

▶『にんじん』(3円50銭)

日本近代文学館提供

スターと名場面
なかばミュージカル映画!主題歌も人気の「会議は踊る」

この年公開された映画に、小津安二郎監督の「浮草物語」がある。信州の小さな町へ久しぶりにやって来た旅芸人一座を中心に物語は展開する。一座の座長にとって、そこはワケアリの町。秘密の恋人と彼女に生ませた子どもがいるのだ。ところが、今や立派な青年に成長したその子が、一座の娘と恋に落ち、駆け落ちさえしかねない仲になったのを知って、旅芸人の座長は人生の因果なめぐり合わせに深く感じ入るという話。なおこの作品は昭和三四年に小津自身が「浮草」というタイトルでリメイクしている。

洋画ではドイツ映画「会議は踊る」がヒットした。ウィーンを訪れたロシア皇帝と、町の娘とのうたかたの恋を描いた映画。歌と踊りを随所に繰り広げる、なかばミュージカル映画で、その主題歌は日本でも多くのファンに口ずさまれた。

またこの年、人気マンガがアニメ「のらくろ伍長」となって、スクリーンに登場している。サイレントだったので、弁士の活躍する余地は十分あった。

この年ほかに次のような作品が公開された。かっこ内はおもな出演者。

「一本刀土俵入」(林長二郎=後の長谷川一夫)「街の灯」(チャールズ・チャップリン)

▲「浮草物語」で座長の息子を演じた三井秀男(右)と、一座の娘役の坪内美子(左)。

▲村田安司の作画・演出による「のらくろ伍長」。原作者の田河水泡が気に入ったという作品。動きにもスピードがあった。

マツダ映画社提供

▼「会議は踊る」でヒロインの町の娘を演じたリリアン・ハーベイ(右)と、彼女に恋をするロシア皇帝役のビリ・フリッチュ。

川喜多記念映画文化財団提供

モノ語り'34
「サロンパス」「オープン・シャツ」、パイプ用タバコ「桃山」大ロングセラー商品が続々誕生!

▲電話機の原型ここにあり　手に取ればそれが送話器でもあり受話器でもあるという、当時としては革命的なスタイルの「3号電話機」が、逓信省によって開発され、この年の4月から利用されるようになった。それまでの送・受話器セパレート・タイプより数段、使い勝手がよくなった。

▶膏薬が黒から白へ大転換　久光兄弟合名会社(現・久光製薬)は、すでに明治40年に膏薬「朝日万金膏」を発売しヒットさせていたが、これには、独特の臭いや、はがした後に黒い膏体が残るという欠点があった。薬の性質上いかんともしがたいことではあったが、この年、東京の天来本舗の「テンライ」を見本として、メントールの匂いときれいにはがれるという特質を持った「サロンパス」をついに開発、その試供品を世に出すことができた。これが昭和11年頃から大ヒット商品になっていったのである。

▶省エネルックはこの頃から　湿度の高い日本の夏に合わせて、ヨーロッパスタイルを改め、ノータイで、襟もとを楽にすべきであるとする、京都帝国大学の教授たちの提案にシャツ業界が動いた。これが〝ノータイ・シャツ〟を生んだが、ネクタイ業界の抗議で名称を変更し〝開襟シャツ〟になった。しかしこれも、この年までには、その英訳である「オープン・シャツ」と呼ばれるようになり、蝶矢シャツ製造所(現・CHOYA)がその名で売り出した。

◀折りたためばポケットサイズのカメラ　モルタ合資会社(現・ミノルタ)からこの年「ミノルタベスト」が発売され話題を呼んだ。蛇腹式なのだが、革製ではなくベークライト製で、四角い枠が入れ子式になっていた。撮影時は〝剛体蛇腹〟と呼ばれたこの蛇腹を前方に引き出す。〝ベスト〟という名称は、チョッキのベストに入る大きさというところからきている。

ナショナルの猛烈な勢い

ナショナルランプの品質を向上させたこの頃の松下電器製作所は、会社全体が異常なほどの盛り上がりを見せていた。それというのも、昭和7年5月5日、新たな創業記念日とでもいうべき時を迎えていたのである。この日、創業者・松下幸之助は従業員の前で、人々を豊かにするための生産活動を、と事業の社会的使命を説き、新使命による経営を強く打ち出した。これによって従業員の意気は大いに上がり、正月には、写真に見るような活気に満ちた〝初荷〟を敢行するなど、松下電器製作所はみるみる発展拡大していった。

▼手元で自在に扱える非常用電灯　松下電器製作所(現・松下電池工業)から、すでに昭和2年には開発・販売されていた「ナショナルランプ」だが、この年までには改良も進み、非常時における必需品として、その需要に応じられるだけの品質が確保され、ヒット商品になっていた。昭和10年には〝防空演習毎にナショナルランプ〟〝灯火管制にはナショナルランプ〟といったキャッチコピーも生まれていたほどである。

▲ちょっときざなタバコが登場　この年初めてパイプ用の刻みタバコが、専売局(現・日本たばこ産業)から発売された。タバコが桃山時代に伝来した故事にちなんで「桃山」と名づけられた。キャラクターの帆船は、慶長年間に日本に到来したオランダ船で、パッケージは全面銀色と、豪華さを売りにしたデザインだった。100グラム入り90銭。

◀東海林太郎と高峰秀子（一一）。二人は特別ショウ「赤城の子守唄」（東京・日比谷公会堂）で共演。東海林は、高峰とその養母を自宅に同居させた。

人物クローズアップ

東海林太郎（三五）

超エリートから一転、歌手に「赤城の子守唄」が大ヒット！

「泣くなよしよし　ねんねしな　山の鴉が啼いたとて　泣いちゃいけない　ねんねしな……」

昭和九年二月一五日、佐藤惣之助作詞、竹岡信幸作曲の「赤城の子守唄」が、ポリドールから発売された。歌手は、東海林太郎という三五歳の新人だった。

前年の一二月二三日、天皇・皇后に待望の皇太子が誕生し、国中が祝賀ムードにあふれかえった。こうした中、「赤城の子守唄」は、高田浩吉主演の「浅太郎赤城の唄」という松竹映画の主題歌で、明るい祝賀ムードとは反対のうら悲しい歌だったが、発売されるとたちまち爆発的な大ヒット。四〇万枚を売り上げて、東海林太郎も一躍、代表的な人気歌手の一人に数えられる。

東海林太郎は、明治三一年一二月一一日、秋田市生まれ。父は秋田市庁につとめる土木技師だったが、東海林が一〇歳の時、市庁を辞め、妻とともに満州（中国東北部）に渡った。両親から離れ、祖母のもとで育てられた東海林は、学業はもとより、スポーツや音楽にも秀でた優秀な子どもだった。東海林が音楽に親しむようになったのは子どもの頃からで、秋田中学（現・秋田高校）に入ると、東京音楽学校（現・東京芸大）のバイオリン科をめざすようになった。東海林は借りたバイオリンで練習を続け、ついには音楽学校へ合格するのだが、最後に大きな難問があった。

父は名にしおう硬骨漢だった。音楽などは軟弱のきわみ、男子として情けないと言って、まったく受けつける余地はなく、さもなければ勘当するという始末。東海林は泣く泣く音楽学校を断念、早大商学部に入学する。在学中の彼は「ガリ勉太郎」と呼ばれるほどの勉強家で、研究科（大学院）に進み、さらに卒業後は、当時の超エリートコース、満鉄調査部に入る。東海林が満鉄ですごしたのは八年間だった。最後は鉄嶺（瀋陽北部）図書館館長で職を辞し、昭和五年に帰国する。

帰国した東海林はクラシックの音楽家をめざしたが、昭和八年「時事新報音楽コンクール」に入賞。それが歌謡界へ足を踏み入れるきっかけになった。キング、後にポリドールと二つの会社の専属になった彼は、二曲目の歌として「赤城の子守唄」を吹きこむことになったのである。

「東海林さんには声楽も歌謡曲も区別がなかったようです。あの直立不動の姿勢はその現れでしょう。とにかく求道的な人で、流行しようがしまいが、自分が納得できればよかったようです。『赤城の子守唄』がヒットした時は、あまりに意外で、逆にショックだったようですよ」

脚本家で東海林の伝記『一唱民楽』の著者でもある岩間芳樹氏の話である。

東海林はその後も「国境の町」「旅笠道中」「野崎小唄」「すみだ川」など、続々とヒット曲を出し、戦後も精力的に歌い続けた。晩年、彼はこう語っている。

「人間にとって歌は一番簡単なものですが、それに私は生命を賭しました。これからもすべてのものをほうって、歌うのです」（「文藝春秋」昭和四四年三月号）。

昭和四七年一〇月四日死去、享年七三歳だった。

▲昭和初頭の歌謡界を代表する流行歌手たち。右から喜代三、小唄勝太郎、市丸、東海林太郎、丸山和歌子、赤坂小梅、徳山璉、渡辺光子。ビクター、日本コロムビア、ポリドールの歌手の座談会で撮影されたもの。

決定的瞬間

気ままな逃亡生活のはてに一八七発もの銃弾をあびた〝ボニー&クライド〟の青春

▼クライドの遺体。臨時ニュースで彼らの死を知った市民が、現場に押し寄せた。ユニフォト・プレス

ルイジアナ州の小さな町の林の中に、囮のトラックが止まっていた。まわりには武装したテキサス・レンジャーと地元の保安官など六人が、二日も徹夜をして張りこんでいた。「二人は仲間に会いに、かならずここにやって来る」と予想していたのだ。

一九三四年五月二三日午前九時半頃、クライド・バーロー(二五)が黄色いフォードV8をトラックのそばに止めようとした時、警察官たちの銃が一斉に火を噴いた。フロントガラスは粉々に砕け散り、クライドの後頭部は半分吹き飛んだ。華奢で魅力的だったボニー・パーカー(二四)は、食べかけのサンドイッチを握りしめ、顔には血が飛び散り、前につんのめるようにして死んでいた。二人の乗ったフォードはさらに銃弾をあび、ゆっくりと前進して停止した。撃ちこまれた銃弾の数は、全部で一八七発だったという(『ボニー&クライド』J・トレハーン 中央アート出版社)。

クライドはダラス近郊の貧しい農民の子どもとして生まれ、口減らしのために親戚に預けられたりして育った。兄のバックは盗みの常習犯で、クライド自身も一五歳の時から不良グループに入っていた。

一方、ボニーは煉瓦職人の子どもとして普通の家庭に育ったが、彼女が四歳の時に父親が死亡。一家は母親の実家に身を寄せていた。

二人が出会ったのは、一九三〇年の一月。クライドはテキサス州の二つの町での強盗事件が明るみに出て、まもなく逮捕される。ボニーはそれでも彼を捨てず、何度も面会に行き、二人の未来を語るたくさんの手紙を書いている。そして、一九三二年の二月にクライドは保釈され、以来二人は強盗、逃亡、一二人にもおよぶ殺人、という引き返すことのできない長い旅に出たのだった。

写真は、逃走途中で撮影したものだ。ショットガンをクライドに向けた小柄なボニーは愛らしく、身だしなみに気をつかうクライドはダンディぶりを発揮している。笑みを浮かべた二人の姿は幸せそうにさえ見える。

〝ボニー&クライド〟は多くの伝説に彩られていて、その真実が伝わりにくい。二人をモデルにした映画「俺たちに明日はない」(アーサー・ペン監督/一九六七年)で描かれたように、クライドの犯した強盗事件は失敗が多く、むしろ「ガソリンスタンドの疫病神」と揶揄されるような強盗であった。当時のマスコミが伝えた「ボニーは葉巻を吸う毒婦で、クライドを牛耳っていた」というのは虚像だ。むしろ平凡な家庭を作りたかったようだ。彼女は、逃亡生活を続けながら、詩を書いている。「ひとは彼を血も凍る殺人鬼と呼び 冷酷非情の犬畜生よばわりする でも はばかりながら 私の知るクライドは 馬鹿正直な実直者」(『ボニーとクライドの物語』抄)。

当時のアメリカは一九二九年の大恐慌以来の不況の中にあった。失業者が街にあふれ、農民は土地を失って流浪していた。〝ボニー&クライド〟は、貧困から抜け出し「自由気ままに生きたい」という貧しい人々の願望を代弁していた。その「自由気まま」の代償として、警察権力は、二人の青春に一八七発の銃弾を撃ちこんだのだ。

▲ボニーの遺体は、赤いドレスに赤い靴を身につけていた。ユニフォト・プレス

▲二人が捕まらなかったのは、クライドが裏道に通じていて運転技術も優れていたからだ。家族思いの彼らは、何度も警察の包囲網を突破してダラスに舞い戻っている。ユニフォト・プレス

二四歳の気鋭・名取洋之助 欧米グラフ誌に負けない「NIPPON」を創刊！

昭和九年一〇月二〇日、季刊の大型グラフ誌「NIPPON」が創刊された。同時に配布された内容案内には「現代日本紹介欧文豪華写真雑誌」と記されているように、判型は四六四倍判といって、左右二六五ミリ、天地が三七〇ミリの大型雑誌。写真は一二〇枚使用され、記事は英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語の四ヵ国語で記されている画期的な写真雑誌が登場したのである。定価は一円二〇銭。創刊号は五〇〇〇部だった。

この写真雑誌の発行者は、ドイツの出版社ウルシュタイン社の特派員としてドイツから帰国したばかりのカメラマン名取洋之助、二四歳の気鋭である。

ドイツに留学中、名取は日本から送られてくる日本紹介を見て、あいも変わらぬ富士山、桜、芸者、舞妓といった決まりきった写真ばかりで、しかも粗悪な印刷であることを情けなく思っていた。当時のドイツは「バウハウス」が中心となったモダニズム全盛の時代で、印刷表現の分野でも写真と結びついた機能的なデザインやタイポグラフィーを駆使したグラフ誌が一世を風靡していた。

帰国した名取は昭和八年八月、日本での報道写真の確立をめざし、「日本工房」を設立。その時のメンバーは、写真家の木村伊兵衛、デザイナーの原弘、写真評論家の伊奈信男、プランナーの岡田桑三らであった。さっそく、木村伊兵衛の写真を使って「ライカによる文芸家肖像写真展」「報道写真展」などを開催。好評を得るが、いずれも一国一城の頑固者の集まりだったため、意見の対立も多く、経済的な問題もあり、第一次「日本工房」は九年三月、解散となった。

その傷も癒えないうちに、名取は第二次「日本工房」を独力で始める。花王石鹸や千代田ポマードなどの広告で一大エポックを作った太田英茂の紹介で、資生堂を離れてフリーになったデザイナーの山名文夫、松竹に籍をおく河野鷹志を迎えた。東京・銀座六丁目の交詢社ビルに事務所をかまえ、宣伝企画業を開始するが、時代はまだ名取の先駆的な広告を必要としていなかった。ところが、この逆境が対外文化宣伝の欧文雑誌「NIPPON」創刊の契機となった。

名取はドイツの雑誌「ポッカ・シュトラッセ」がコーヒー王をスポンサーにしていることを思い起こし、急遽、見本誌を作り、鐘ケ淵紡績の津田信吾社長に会った。

「日本が、ゲイシャやフジヤマだけではない近代国家であることを紹介する雑誌があれば、この際、すこぶる有意義なことだと思う」と言う津田との間に、話はとんとん拍子に進み、津田が創刊号の費用を出してくれることになった。

さっそく、名取は西欧には負けない雑誌作りに着手する。デザイナーは山名、河野、写真は渡辺義雄、堀野正雄、編集・制作は小説家志望に見切りをつけた飯島実を迎えた。名取夫人のエルナ・メクレンブルグが欧文の写真キャプションや校正にあたった。欧文書体もろくにそろっていない当時、山名は自分で見出しなどのレタリングをして徹夜の作業を繰り返した。共同印刷の大橋松雄社長から全面的な協力を得るが、完璧を求める名取は、校正刷りを破り棄てて怒鳴りちらすこともあった。飯島が間に立って、工場の深夜作業に立ち会うことも再三だった。

「よき指導者でしたが、時にはなぐられたこともあります。写真のことがよくわかっているからイライラしたのでしょうね」と、昭和一二年に「日本工房」に入った写真家の藤本四八は回想する。

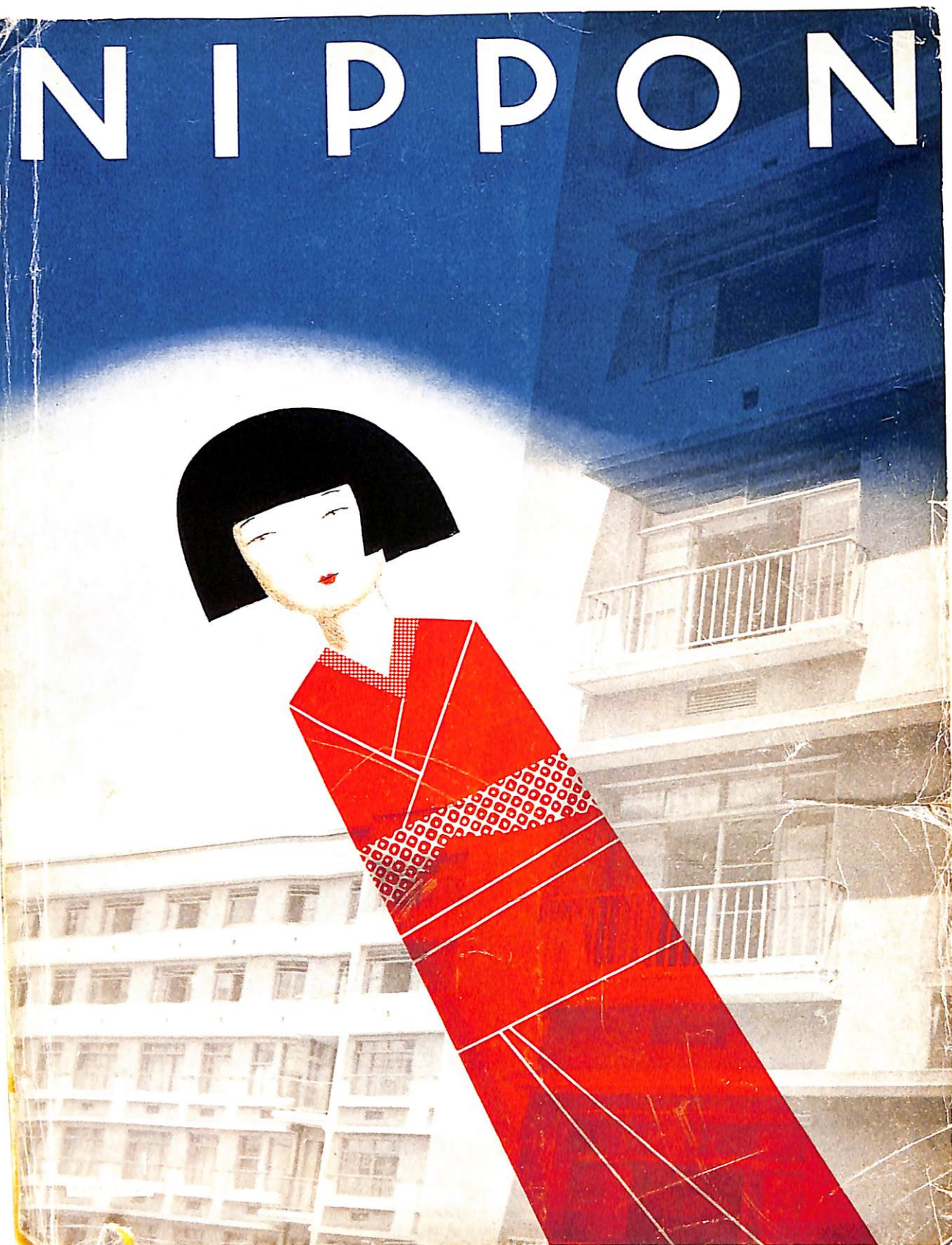
これもすべて、実業家・名取和作の三男として生まれたわがままな御曹司ではあるが優れた才能と感覚を持った名取を認め、彼のもとで最高のものを作っているのだというスタッフ一同の自負と喜びがあったからできたことである。

こうしてでき上がった創刊号は、国外だけでなく、国内でも評判がよく、特に優れた写真やデザインは、若いカメラマンやデザイナーに強烈な印象と刺激を与えた。「ジャパンタイムズ」社長の芦田均は、「ドイツ・イタリーの一流の画報に比べても決して遜色ないのみならず、美術眼から見て、たしかに『NIPPON』の方がまさっている」という一文を寄せている。

以後、「NIPPON」は写真家の土門拳、デザイナーの亀倉雄策ら、戦後の写真・デザイン界を代表する多くの人材を輩出するが、敗戦の近い昭和一九年九月号で終刊。その間に計三六冊が発行された。

日本カメラ博物館提供（4点とも）

L'ARMEE DE SA MAJESTE

◀▲「NIPPON」5号の表紙と、「皇軍」と題された仏文の記事。平和を望む天皇の軍隊について解説している。

▲「NIPPON」創刊号の表紙。写真は渡辺義雄、デザインは山名文夫。日本の伝統と近代を、シンボリックに表現している。

▶二四歳当時の名取洋之助。戦後は「週刊サンニュース」「岩波写真文庫」の創刊・編集にたずさわった。

20世紀博物館

地下鉄博物館

昭和モダンのシンボルに人々が見た〝夢の世界〟を追体験！

東京・江戸川区

桑原茂夫

初めて東京に地下鉄が走ったのは、昭和二年のこと。暮れも押し詰まった一二月三〇日午前六時、上野から浅草に向けて一〇〇一号電車が走り出した。この一番電車に乗ろうと、前夜から徹夜で行列した人たちも含めて、その日の午前中だけで二万人の乗客を運んだという。東京市の人口が四〇〇万人の時代だったというのだから、いかにすさまじい人気だったかをうかがうことができる。

▶初めて走った地下鉄の車両。車体の色が黄色いのは、明るさを印象づけるため。右手前にターンスタイルの自動改札機が見える。

服部昌一郎

それから六〇年近く経て開館した「地下鉄博物館」に、ズバリその一番電車が展示されており、当時の駅の様子なども併せて見ることができる。そして、なぜそれほどの人気が地下鉄に集まったのか、その一端を知ることになるのだ。

ひとことで言うと、何もかもがモダンだったのである。地下鉄ができて便利になったとか、そういう実用レベルの話ではなくて、地下鉄という存在そのものが、未来世界からの使者であり、未来世界への案内人だったのである。

▼車体は鋼鉄製。車両の内部に木目が見えるのは、貼り材によるもの。吊皮はバネ式で、使っていない時ははね上がり車内が広く見えるように工夫されていた。

▼模型のレールの上を、銀座線や丸ノ内線、千代田線などの地下鉄が走りまわる。

たとえば改札口ひとつとっても、十銭白銅貨を入れると通れるターンスタイルの〝自動改札機〟であり、駅員や車掌の制服も、七つボタンの洒落たヨーロッパスタイル。上野駅には、スーパーやレストランを併設させ、駅をたんなる乗降施設から多機能のサービス施設へと大転換させるなど、夢いっぱいの〝来たるべき世界〟がそこに現出していた。

この未来世界を築くにあたって力を尽くしたのは、早川徳次という人。ロンドンやヨーロッパ諸都市をまわって、地下鉄建設に思いいたったというが、都市の道路がクルマで埋まる社会を予測し、地下の開発を考えたというより、未知の空間に新しい乗りものを走らせるという、大きな夢を描いたのではないだろうか。現実のニーズは、夢の後からやって来たと考える方がずっと楽しいではないか。

この「地下鉄博物館」には、今もその夢の雰囲気が漂っていて、大きな鉄道模型や、実物大の運転席が用意されているシミュレーターなどはまさに夢の装置そのものだ。

で、筆者も運転シミュレーターを体験することにした。元運転士だった人の指導のもと、発車直前にブレーキをゆるめるところから始めるのである。子どもの頃から一度やってみたかった電車の運転である。加速、減速、停車など、運転席の操作で、目の前の映像が現実そのままに動き、なんと車体も揺れる！ コンピュータによるデータ処理をフル活用した装置で、実によくできているのだ。この装置に魅せられてかよいつめるファンもいるそうだが、その気持ちもよくわかってしまうのである。

ほかにも、地下をモグラのように掘り進めるシールド工法の実際や、トンネルの安全装置の実際だとかも展示されていて、ここにはアンダーグラウンドの夢と、それを作り出す背景のすべてが浮上しているのであった。

◀運転シミュレーター。地下鉄の路線は、意外と勾配やカーブが多い。右はガイド役の元運転士。

●地下鉄博物館
東京都江戸川区東葛西六―三―一
☎〇三―三八七八―五〇一一
地下鉄東西線葛西駅下車、徒歩一分
開館時間＝一〇時～一七時半
休館日＝月曜日（祝日の場合は翌日）、年末年始
入館料＝一般二一〇円

「珍しや、写楽の肉筆現わる――」

美術界の大御所まで登場の大スキャンダル！

「春峯庵」贋作事件の一部始終

▲東洲斎写楽「市川団十郎」の贋作。 「芸術新潮」提供

▲写楽の真作「市川団十郎」。左肩の三升の紋の違いが目をひく。

「春峯庵事件」は、当初ごく単純な贋作事件にすぎないと思われていた。ところが、浮世絵界の大御所が検挙される一大スキャンダルにまで発展。後に松本清張の小説『真贋の森』のヒントにもなったこの事件は、半世紀以上にわたって、浮世絵界に暗い影を落とすことになった。

〝世界の大発見〟が計画的犯行に急転

「珍しや、写楽（しゃらく）の肉筆現わる――」

昭和九年四月二六日付「東京朝日新聞」に、こんな書き出しの記事が掲載された。

「日本にたった一枚しかなかった（東洲斎（とうしゅうさい））写楽の肉筆――それが罹災（りさい）で灰にして以来、絶望視されていたところ、このほど大作二枚が某大名の秘庫から発見され、鑑定した笹川臨風（ささかわりんぷう）博士をして〝世界の大発見〟と推薦せしめた。この大発見と同時に、慶長（けいちょう）、享保（きょうほう）、寛政（かんせい）時代の大家を総動員した肉筆の傑作十七点も発見された」

記事はさらに、「〝春峯庵（しゅんぽうあん）〟なる大名華族の秘庫で、写楽をはじめ、岩佐又兵衛（いわさまたべえ）や喜多川歌麿（きたがわうたまろ）、懐月堂安度（かいげつどうあんど）らの浮世絵十七点が発見され」たと続いている。この特種（とくだね）が、ことの発端だった。

この頃の浮世絵界では、大正一二年の関東大震災で焼失した相撲絵九枚を最後に写楽の肉筆画は日本になくなり、旧大名家所蔵の名品も出つくしたと言われていた。それだけに、大家の作品が続々発見されたとなると、美術界ならずとも興奮せずにはいられない大ニュースだった。

さらに、〝新発見〟の作品、七点など

を掲載した「春峯庵華宝集」なる豪華図録も関係者に配られ、五月一二日に華々しく開催された売立では、「噂にたがわぬ名作」と多くの見物人が膝を打った。初日だけで、総額二〇万円のうち九万円が売却済になったほどの反響を呼んだ。

ところが、すぐに売立参加者の間で「贋作ではないか」とささやかれ始めた。東京・芝界隈の古美術商や表具師らが、「二年ほど前から買いあさられていた安い掛け軸の表装が、売立の絵に転用されているのでは……」と言い始めたのである。

この疑惑に火をつけたのが、大スクープをものしたはずの「東京朝日」。「幽霊名門で釣り、ニセ逸品売立、一流学者や鑑定家を担ぎ、首謀者に飯田町大神宮神職――」との記事が二三日に出るや、売約済だった作品のキャンセルが続出。契約額は二四〇〇円に急落した。

やがて、警視庁の調べによって、これが浮世絵商や画工、出版業者らによる計画的犯行で、「春峯庵」なる某家も、福井藩の松平春嶽をもじった幽霊名門だと発覚。世間を騒がせた〝世界の大発見〟は前代未聞の贋作事件に逆転する。

プロの眼を眩ませた天才少年の筆さばき

芋づる式に検挙されたのは、大物浮世絵商の金子孚水や表具屋の矢田一家（千九郎＝五六、三千男＝四〇、修＝三〇、金満＝一六）のほか、関係者として元国学院大学庶務課長の渋谷吉福、出版業の上村益郎など九人。金子（懲役二年）、三千男（懲役一年半）、修（懲役一年）の三人をのぞいた全員が放免された。

この事件が起きたのも、当時、江戸時代初期の風俗画が人気を集めていたからで、「帝国ホテルを設計したライトなどの外国人収集家までが、この時期に数百円から数千円という高値で浮世絵を集めていたんです。だからこそ、浮世絵商の金子孚水の発注にあわせて、時代考証と構図を担当した三千男から絵描きの修と金満、古色付けの千九郎と流れ作業で贋作を手がけ、儲けようとしたのでしょう」

と解説するのは、『小説春峰庵浮世絵贋作事件』の著者、久保三千雄氏である。

ところが、単純な詐欺だったはずの事件は、大スキャンダルに発展する。まず、大家の筆法を真似して書かれた作品が、一六歳の金満の手によるもので、プロの眼を眩ませていた驚きである。

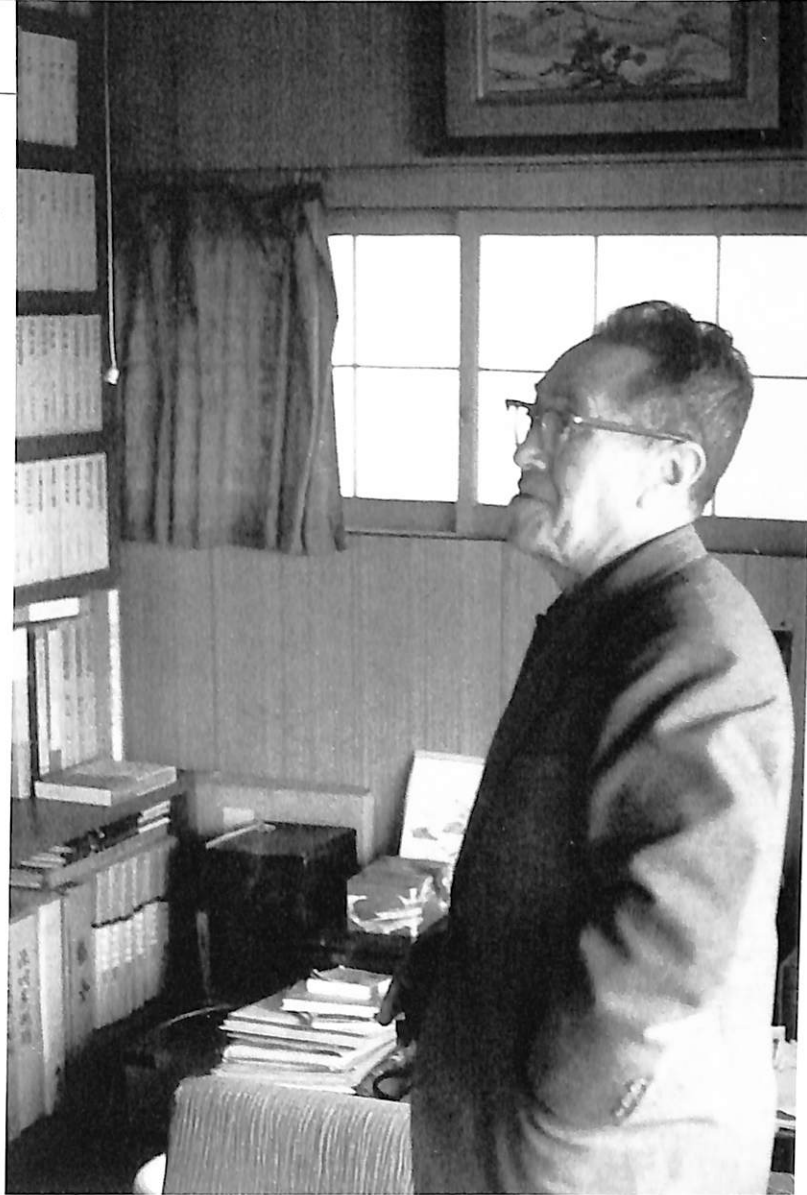
そこで、警察は模作の実演を試みた。警視庁に金満と修を出頭させ、勝川春章の美人画を模写させたのだ。記者や野次馬の政府高官がその筆さばきを見つめる中、難なく描き上げていく金満。「これはすごい。大したものだ」という賛嘆の声があがる。こうして才能が証明された金満は一躍、天才少年として脚光をあびる。「ジャパンタイムズ」（一一月八日）はインタビュー記事を掲載。美術品蒐集家としても著名な根津財閥の根津嘉一郎にいたっては、金満にアトリエを提供、彼の肝煎りで開催された「矢田模写展覧会」は、全作品が予約される盛況ぶりだった。

もうひとつの謎は、浮世絵の最高権威者・笹川臨風（六三）が本当にニセモノと知らずに太鼓判を押したのか、である。結局、笹川は謝礼と引きかえに、「春峯庵」の画集に序文を寄せたとささやかれ、学者生命を絶たれた。

まさに、欲が人の運命を狂わせることを象徴した「春峯庵事件」だったが、「この一件の本当の危うさは、摘発前に作られていたニセモノが国内外に流出し、その後の浮世絵界に大きな影を落としたことにある」と久保氏は指摘する。

銀座で画廊「角匠」を営み、「春峯庵」の偽作を所有する角田日出男氏は、「事件後、笹川教授の轍を踏むまいと、浮世絵について語ろうとする学者が出ないまま、浮世絵研究に空白ができてしまったのは事実です。それに売買の場で、〝春峯庵モノ〟を引き合いに出す買い手は今でも多い。その意味で『春峯庵事件』はまだ終わっていないのです」と語る。

事件の主人公たちはその後、刑期を終えた金子が、再び浮世絵商に復帰。神童と騒がれた金満は、過労から吐血して一八歳で死亡した。その金満の存在に隠れながら、実は贋作チームの中心人物だったと言われる三千男は、著述業に転身し、『浦上玉堂の研究』（昭和三六年）などの著書を残している。

▶長兄の矢田三千男（右）が構図を担当し、三男の修と末弟の金満が絵を描いたと言われる。父の千九郎は、絵の具を剥落させたり、古布で表装する役まわり。「芸術新潮」提供

▼病弱の金満は、療養の床で雑誌の挿絵などを模写していた。「芸術新潮」提供

▶〝発見〟された浮世絵を、世にも稀なる珍品として鑑定、推奨した笹川臨風。

▲豪華図録「春峯庵華宝集」表紙。鶯谷の料亭「伊香保」で現品の下見を行い、図録の序文を書いた笹川臨風は、この事件で学者生命を絶たれた。「芸術新潮」提供

フォト＋日録で再現する365日

▶**実弾射撃で人工雨(7月8日)**人工的に気圧変化を起こして雨を降らせようと、第12師団は福岡県の3ヵ所で800発を発射(写真)。西日本は大干ばつだったが、翌日福岡には12ミリの雨が降った。

朝日新聞社

◀**英国人陶芸家バーナード・リーチ窯開き(7月1日)**栃木県益子の陶芸家・浜田庄司方で、大皿、小皿など500点を焼き上げた。この頃から浜田らによって益子では、陶器生産がさかんになった。

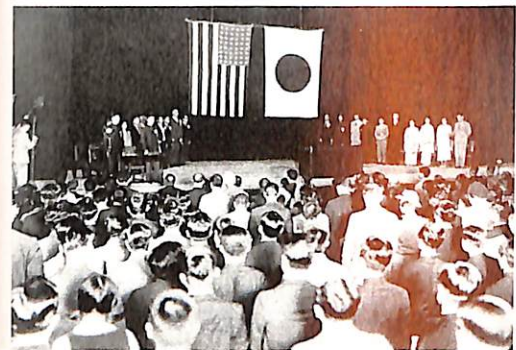
影山光洋

「歴史写真」

▲**北陸三県大水害(7月11日)**10日以来の豪雨による河川の氾濫など、石川・富山・新潟3県で死者・行方不明255人、家屋流失326戸の被害を出した。写真は石川県手取川の北陸本線美川鉄橋。

▼**近畿防空大演習(7月26日)**「防空力増強をはかる」ため、2府6県で実施。陸軍4個師団が参加する大規模なものだった。写真は空襲警報で地下鉄駅へ避難する小学生。

「歴史写真」

▼**日米学生会議開催(7月14日)**親善を深めるため、東京・青山学院に137人が参加、経済・外交の諸問題に意見交換した。写真は日比谷公会堂の発会式。

朝日新聞社

朝日新聞社

▲**岡田内閣成立(7月8日)**民政・政友両党から5人が入閣したが、親軍的な新官僚中心の組閣のため、ワシントン軍縮条約脱退、「満州国」の陸軍独裁を認めるなど、軍部の独走を許した。

「歴史写真」

昭和9年7月

1(日)●バーナード・リーチ、栃木県益子町の浜田庄司宅で窯開き。柳宗悦、栃木県知事ら参列。
●満鉄、北平(北京)―奉天(瀋陽)間を直通運転。
2(月)●商工省、セメント統制方針を決定。
3(火)●斎藤実内閣、帝人事件の責任取り総辞職。
●東京で第一回電気商品見本市を開催。
4(水)●初の重臣会議。後継首班に岡田啓介を決定。
5(木)●ソビエト友の会が解散声明。
6(金)●高島屋百貨店が「全館冷房」と新聞に広告。
7(土)●海軍兵器製造の大阪機械製作所でスト(9日九〇〇人が高野山に籠城。9月7日敗北)。
8(日)●岡田啓介内閣、成立。入閣拒否の政友会から床次竹二郎ら三人入閣し党議無視で除名。
●大干ばつの福岡県で雨ごい実弾射撃を実施。
9(月)●共産党三・一五事件非転向首脳部への控訴審判決。市川正一は無期、国領五一郎は一五年。
10(火)●船舶建造で日本は世界二位と英ロイド発表。
11(水)●北陸三県に豪雨被害。死亡・不明二五五人。
12(木)●日印通商条約、調印。最恵国待遇など規定。
13(金)●北九州の水飢饉で工場が続々と休止と新聞に。
14(土)●「島の娘」の一部歌詞に削除命令、と新聞に。
15(日)●東京―新京(長春)間二〇〇〇㌔マラソン始まる(選手二人は8月21日新京に到着)。
16(月)●海軍、軍縮条約破棄など根本方針を決定。
17(火)●満州国産業建設学徒研究団の六五〇人、出港。
18(水)●築地本願寺で汎太平洋仏教青年大会開催。
19(木)●内務省、左翼援助のソ連大使館員調査を完了。
20(金)●大阪鉄道局、吹田―須磨間の電化を終え、蒸気機関車牽引から、電車の直通運転開始。
21(土)●元商工相・中島久万吉、帝人事件で収監。
22(日)●各国で日本製靴下が良質で安く好評と新聞に。
23(月)●丹那トンネルによる渇水で静岡県田方郡の農民五〇〇人が村議宅を襲い、警官隊と乱闘。
24(火)●銀座の商店が地下鉄により陥没被害と抗議。
25(水)●オーストリアでナチスがドルフス首相を暗殺。
●朝鮮南部で水害。六一人死亡、一二六人不明。
26(木)●近畿防空大演習開始。四個師団が参加。
27(金)●仏で社会党・共産党の統一行動協定成立。
28(土)●米ノースウエスタン大が日本憲法の講師として美濃部達吉招聘の斡旋を広田外相に依頼。
29(日)●東京淀橋区で豆腐原因のチフス患者三六人に。
30(月)●東京でこの日六人が自殺はかり四人死亡。
31(火)●西日本干害、東北冷夏で凶作を予想して米価高騰、清算米が四七銭高、正米三〇銭高。

証言・あの日この日

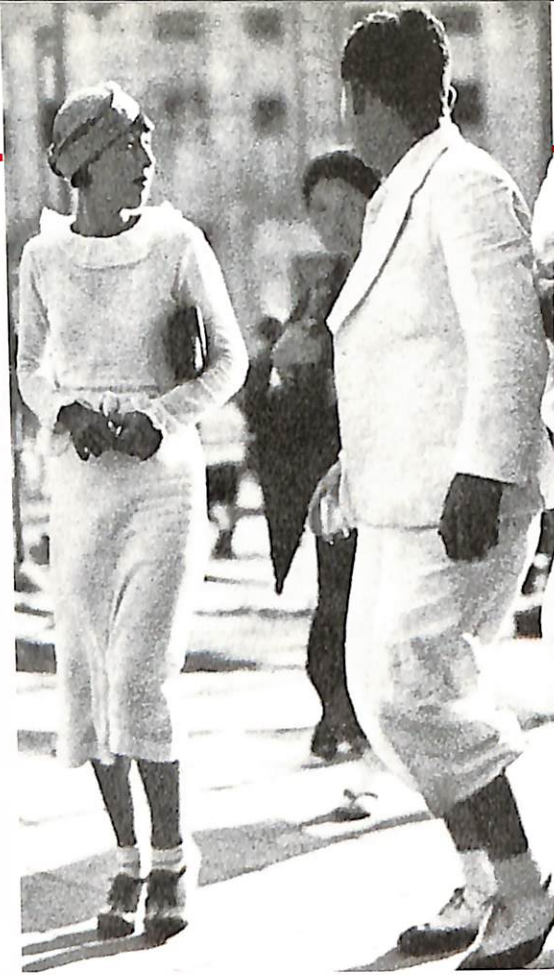
荒垣秀雄(31)

12月1日(土) 〈凶作は色んな意味で村から「明るさ」を奪つて行く。今度はまた娘を凶作は村から奪ひ去らうとしてゐる。／「これがその、娘が化けた四十円の家ですよ」と教へられた。／この佐藤一家は、家を借金のカタに取られて近所の家に同居してゐたが、スミエといふ十四の娘を名古屋市／の娼妓屋に売つた金で此の家を買つたのだ〉(荒垣秀雄「冬籠りの窮農を訪ふ」)

大恐慌に続いて大凶作が東北の農村を襲った。娘の身売り話が新聞紙上をにぎわしたのはこの頃である。若き日の「朝日新聞」記者・荒垣秀雄も、東北農村の惨状をルポするために青森県新城村を訪ねた。ちなみに、この娘の身代金は、5ヵ年契約で450円、しかし親の手元に残ったのは、わずか150円だった。荒垣は戦後、「天声人語」の担当筆者となる。(山崎行太郎)

朝日新聞社

▲**甲子園に野球塔(8月11日)**中等大会20周年記念で建てられたが、後に空襲で半壊、国道拡張工事で取り払われた。塔横の20本の柱にはそれまでの優勝校と、この年優勝の呉港中学名が刻まれた。

◀**真夏の猛暑に新ファッション(8月)**連日30度を超す東京では、男性に開襟シャツやノーネクタイ、女性に簡単服、ノーストッキングが流行。お洒落を兼ねた暑さ対策だった。

朝日新聞社

◀**酒なし日(8月29日)**全国酒なし日同盟は東京・九段に会員2000人余が参加して大会を開催。9月1日の震災の日を酒なし日にし、酒代を軍に献納しようと提唱した。写真は会員の垂れ幕作り。

影山光洋

「歴史写真」

野沢正提供

▲**「赤トンボ」完成(8月)**石川島飛行機製作所で純国産の1号機として完成、制式名は95式1型練習機。最高時速240キロ。改良型の3号機が陸軍に採用され、18年まで2398機が作られた。

◀**ヒトラー、全権を掌握(8月19日)**ヒンデンブルク大統領死去後、職務継承を問う国民投票は、ゲッベルス宣伝相(36、写真)の活躍で圧倒的に支持され、ヒトラー(45)の独裁が確立した。

昭和9年8月

1(水)●三井報恩会、癌研究所にラジウム五㌘など一〇〇万円相当の寄付を決定。
2(木)●東京―新京間に無線電話回線開設。
3(金)●全国の貸座敷業者代表、公娼廃止反対を陳情。
4(土)●帝蓄に移籍した古賀政男、日本コロムビアから契約不履行でピアノなど差し押さえられる。
5(日)●鎌倉・逗子の海水浴客は各三万人で今夏最高。
6(月)●陸軍省、「満州国」発足にともない軍による一元支配をめざす在満行政機構改革原案を発表。
7(火)●商工省、対米マッチ輸出抑制策を決定。
8(水)●神戸市でチフス患者がこの日までに一四五人。
9(木)●米大統領、銀の国有化令。銀国際価格が暴騰。
10(金)●国産自動車工業確立を目的に関係省が第一回協議会。年産二万台を目標とする。
11(土)●甲子園に優勝校名刻む野球塔完成し除幕式。
12(日)●根上博、日米水泳大会で一〇〇〇㍍に世界新。
●明治神宮、汽車の煤煙のため神苑の樹木が枯死したと鉄道省に抗議。
13(月)●上半期労働争議は八二一件に減少と内務省。
14(火)●東京の生花売り上げ伸び四〇〇万円と新聞に。
15(水)●名古屋市が元水泳五輪選手を破格の初任給で採用したことにつき、市議会で問題化。
16(木)●同潤会江戸川アパートが完成。競争率一二倍。
17(金)●三菱、株売買益六〇〇万円を公共事業に寄付。
18(土)●総評議会など一九組合、戦線統一で初会合。
19(日)●ヒトラー、国民投票で大統領兼務の総統に。
20(月)●陸軍省、軍用自動車標準型の試作を決定。
●夏の甲子園、エース藤村富美男の呉港中優勝。
21(火)●「忠犬ハチ公」の話が修身教科書にと新聞に。
22(水)●米で共和・民主両党の保守派がニューディール政策に反対しアメリカ自由連盟を結成。
23(木)●阿寒・日光・中部山岳・阿蘇が国立公園に。
24(金)●僧侶中心に百六十余人が浅草寺防護団結成。
25(土)●東京の日活直営館で楽士解雇反対のスト突入。
26(日)●全農などが農民生活権擁護連盟を結成。
27(月)●ガソリン割当販売で外国会社が商相に抗議。
28(火)●土方与志、第一回ソビエト作家大会で小林多喜二虐殺を訴える(9月20日爵位を剥奪)。
29(水)●永田雅一、日活退社し第一映画社を創立。溝口健二、伊藤大輔、山田五十鈴らが参加。
●松田文相、「近頃流行のパパ・ママの呼称は日本古来の孝道がすたれる」と意見を表明。
30(木)●北満鉄道で列車襲撃事件。日本人一〇人死亡。
31(金)●サンフランシスコで日系市民大会開催。

9〜10月

毎日新聞社

◀**初の日米対抗陸上(9月8日)** 9日まで神宮外苑競技場、15日から甲子園で開催。日本は三段跳びなど6種目に勝ったが、期待のランナー吉岡隆徳が敗れるなど米軍に凱歌。写真は米チームと交歓する東久邇宮。

「歴史写真」

▲**東京市電スト(9月5日)** 電気局の人員整理案に、東京交通労組は全面ストに突入。当局は組合幹部の解雇やスト破りで対抗したが、10月13日2割減給で妥結。写真は気勢を上げる女性車掌。

三菱電機提供

▶**憧れの電化ハウス(9月9日)** 三菱電機は、名古屋製作所内にオール電化のモデルハウス「電気の家」を建設。前年販売を開始した電気冷蔵庫、真空掃除機など家電の宣伝に力を入れた。

朝日新聞社

◀**仙台―東京間で輓馬競走(9月23日)** 東京府馬匹畜産組合連合会主催。19頭がそれぞれ200貫(約750キロ)の木炭を積んで383キロを走破、30日東京・代々木練兵場に到着した。優勝時間は63時間40分だった。

▼**「クイーン・メリー号」進水(9月26日)** 英のキュナード汽船が建造した豪華客船。総トン数8万1235トン、定員2140人。完成後、仏の「ノルマンディー号」と大西洋横断記録を競った。

▶**吉田茂特使(56)、ヨーロッパへ(10月15日)** 外交連絡のためソ連、ヨーロッパ、カナダの各国駐在大使を歴訪。日本の国際連盟脱退後の情勢に対応し、中国での権益拡大をめざす広田外相の外交政策を伝えた。

昭和9年9月

1(土) ●東京・横浜・川崎で五〇万人参加し防空演習。

2(日) ●東京市電、従業員一万人解雇などを発表(5日一万一千余人がスト突入。10月13日妥結)。

3(月) ●東京(箏)・大阪(胡弓)・名古屋(三味線)各放送局で「松竹梅」を合奏し、初の三元放送。

4(火) ●警視庁、ダンスホールの喫茶室で客とダンサーの同席禁止と通達。

●郡是製糸(現・グンゼ)、綿羊を初輸入し生糸恐慌下にある養蚕家に飼育を奨励。

5(水) ●九州の干害被害額一億一三五〇万円と集計。

6(木) ●カナダ政府、カナダ在留日本人の帰化承認。

7(金) ●日本蓄音器商会、古賀政男の帝国蓄音器移籍で損害賠償求め提訴。

8(土) ●第一回日米対抗陸上競技大会、開幕。

9(日) ●三菱電機、名古屋にオール電化のモデルハウス「電気の家」を建て、宣伝用に公開。

10(月) ●朝日新聞社機、東京―北平無着陸飛行に成功。

11(火) ●法隆寺から斑鳩宮跡と推定される円柱を発掘。

12(水) ●関東庁(中国・遼東半島)全職員千余人、陸軍による在満機構改革に反対し総辞職を決議。

13(木) ●前鉄相・三土忠造を帝人事件の偽証で起訴。

14(金) ●帝国競馬協会が初購入の英サラブレッド入港。

●閣議、陸軍主導の在満機構改革案を承認。

15(土) ●外地向け短波放送が南米でも傍受と新聞に。

16(日) ●公金横領し一年余不明の川崎市会議員が自首。

17(月) ●阪大に微生物病研究所設置。所長・古武弥四郎。

18(火) ●国際連盟総会、ソ連の加盟を承認。

19(水) ●満州電気事業の日満合同統制案がまとまり、満州電業設立発起人総会開催(11月1日設立)。

20(木) ●山本五十六ら、ロンドン軍縮交渉に出発。

21(金) ●室戸台風。四国・関西中心に死亡・行方不明三〇三六人、四万戸が全壊・流失。

22(土) ●農林省、台風被災地へ政府米の払い下げと木材の廉価販売を通牒。

23(日) ●仙台―東京間の長距離輓馬競走、開幕。

24(月) ●ベーブ・ルース、ヤンキース最後の試合。

25(火) ●東京・築地市場が一部営業を開始。

26(水) ●日本―フィリピン間に初の国際電話開通。

27(木) ●東郷記念会発起人会、東郷神社建設を決定。

28(金) ●閣議、関西風水害、東北冷害、九州・西日本干害など災害救済のため臨時議会召集を決定。

29(土) ●村山知義ら、左翼劇団糾合し新協劇団を結成。

30(日) ●会津石膏会社採鉱所の落盤事故で生き埋めの坑内労働者二六人、八〇時間ぶり全員救出。

朝日新聞社

▲**大阪観兵式(10月20日)** 海軍大演習最終日のこの日、陸戦隊8000人の観兵式を挙行。「上海事変」で敵前上陸した同隊の人気は絶大で、御堂筋パレード(写真)には多くの市民が集まった。

▶▼**ユーゴの国王アレクサンダル1世暗殺(10月9日)** 同盟強化のため訪れたフランスのマルセイユで、ナチストのクロアチア人に射殺され(写真下はその瞬間)、独仏の緊張が高まった。

朝日新聞社

▲**照宮さま(8)、秋の遠足(10月29日)** いとこの久邇宮正子さん(7、中央)、朝子さん(6、左)をはじめ学習院の友人とともに、武蔵野線で埼玉県入間川町へ。ハイキングや芋掘りで秋の一日を楽しまれた。

ROGER-VIOLLET／ユニフォト・プレス

中日新聞社

◀**高山本線全通(10月25日)** 15年間の難工事のすえ、飛騨小坂―坂上間が完成し、高山本線が全通。山道だけの高山地方の交通が一変しただけに、花列車(写真)でその喜びを表した。

能登印刷出版部提供

◀**小学校に二宮尊徳像(10月30日)** 石川県町野村小学校で尊徳像除幕式を挙行。昭和8年から15年にかけ、農村更生の象徴として、金次郎像が各地でさかんに建てられ、「勤倹、報徳」の文字が刻まれた。

Popperfoto／ユニフォト・プレス

昭和9年10月

1(月) ●陸軍省、「国防の本義と其強化の提唱」(陸軍パンフレット)公表。「高度国防国家」提唱。

●尾瀬沼の長蔵小屋新館、営業開始。

2(火) ●山本五十六軍縮会議代表、シアトルで「日本は近くワシントン条約を破棄」と表明。

3(水) ●九年の米作予想は例年のおよそ二割減で、大正二年以来の凶作と農林省が発表。

4(木) ●警視庁、学生生徒のカフェー出入禁止を通牒。

5(金) ●スペイン労働者総同盟、右派内閣成立に反対し、全国にゼネストを指令(一〇月革命)。

6(土) ●二千余の古墳がある宮崎県で「古墳祭」開催。

●バルセロナでカタロニア共和国独立を宣言。

7(日) ●大阪市、木造小学校をすべて鉄筋化と決定。

8(月) ●ハワイ下院選挙予選で日系候補五人が当選。

9(火) ●ユーゴスラビア国王、仏で狙撃され死亡。

10(水) ●女性飛行家初の海外飛行で満州に向かう松本きく子の愛機に、床次逓相が「白菊号」と命名。

11(木) ●東京市、人件費削減に定年制内規を発令。

12(金) ●金塊引揚げうたった引揚げ同志会、ソ連艦「リューリック号」の引揚げに失敗し解散。

13(土) ●農林省、室戸台風の濡れ米を東北に払い下げ。

14(日) ●ハイキング流行で新宿駅に三〇万人の乗降客。

15(月) ●中国紅軍、瑞金を放棄し「長征」を開始。

16(火) ●東京の湯島聖堂で大成殿復興と講堂新築なる。

17(水) ●京大教授・松山基範ら、海軍潜水艦で房総沖から北海道沿岸までの地殻調査を開始。

18(木) ●日本郵船の米ガルフ航路第一船が神戸出港。

19(金) ●全満巡査代表大会、在満機構改革の憲兵警察制に反対し警官五〇〇〇人の総辞職決定。

20(土) ●名取洋之助ら、季刊誌「NIPPON」創刊。

●日本で初の赤十字国際会議、開幕。

21(日) ●くり抜いた洋書に宝石を入れた密輸犯を検挙。

22(月) ●愛国婦人会、凶作地方の子女救済を支部通達。

●ロンドンで海軍軍縮第一回日米予備交渉開始。

23(火) ●英産業代表団、東京で日英通商委設置に合意。

24(水) ●インド国民会議派指導者にネルーが就任。

25(木) ●飛騨小坂―坂上間開通し、高山本線が全通。

26(金) ●海軍労働組合連盟、「労働報国」の新綱領採択。

27(土) ●ひとのみち教団(現・PL教団)本殿が完成。

28(日) ●東京学生アメリカンフットボール連盟発足。

29(月) ●気象協議会、天気予報を平易に改正と決議。

30(火) ●シュトラウス生誕七〇年で独から交響曲が贈られ、東京音楽学校生徒が合唱を初上演。

31(水) ●結婚詐欺で尺八奏者・福田蘭童、懲役一〇カ月。

▲鹵簿（行幸の行列）誤導事件（11月16日）天皇が群馬県桐生市を行幸中、先導役の警察官が順路を誤った（写真は事件直前の鹵簿）。内務省は群馬県知事らを譴責処分、先導の警察官が自殺をはかるなど大騒動になった。

毎日新聞社

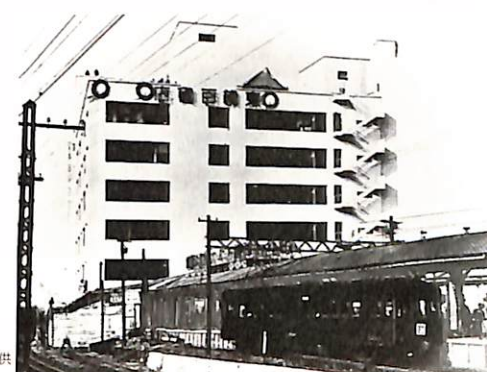
▼ベーブ・ルース初来日（11月2日）ルー・ゲーリッグら全米選抜チームは、沢村栄治、水原茂らの全日本と16戦し、全勝した。写真は13本塁打のベーブ・ルースと甲子園のボール・ボーイたち。

▲東北大飢饉（11月）凶作に見舞われた北海道・東北は、飯米にも窮する惨状で欠食児童や娘の身売りが続出。全国で救援運動もさかんだったが、打開策はなかった。写真は岩手県の子どもたち。

▶きつねの襟巻き流行（11月）新聞も毛皮の見分け方を特集。洋装、和装に関係なく女性たちに愛用されたが、1本15円から200円と庶民には高嶺の花だった。写真の銀ぎつねのボアは最高級品。

松坂屋百貨店

毎日新聞社

▲初のアメリカン・フットボール試合（11月29日）東京・神宮外苑競技場で、横浜外国人クラブＹＣＡＣチームと早・明・立3大学選抜チームが対戦。全員米国生まれの日本チームが26対0で勝った。

▶東横百貨店開店（11月1日）東京・渋谷駅に開店。地上7階、地下1階建て。東京では初のターミナル・デパートで、老舗を集めた「名店街」を新設した（現・東急東横店）。

東京急行電鉄提供

昭和9年 11月

1（木）●大連―新京間に特急「あじあ号」運転開始。
●東京・渋谷駅にターミナル・デパート東横百貨店（現・東急東横店）がオープン。
2（金）●ベーブ・ルースら大リーグ選抜チーム来日。
3（土）●初の全国学生航空選手権開催。二五大学参加。
●国分一太郎ら、北日本国語教育連盟を結成。
4（日）●第一回天理村開拓団、満州へ出発。
5（月）●伊軍、エチオピアに侵攻（12月5日交戦へ）。
●第一回全日本拳闘選手権開幕。
6（火）●ルーズベルト米大統領が再選される。
7（水）●藤井真信蔵相、陸・海相に予算復活要求の削減を要請（22日軍部拒否、27日蔵相辞任）。
8（木）●千葉県下の乳牛に炭疽病発生で牛乳廃棄命令。
9（金）●横浜市疑獄で土木局長収監、連座七〇人突破。
10（土）●北海道・弥生炭坑でガス爆発。四二人が死亡。
11（日）●日本放送協会、陸軍特別大演習を実況放送。
12（月）●カーネギー財団が世界大戦休戦記念日に「一流国際人」の声を放送。日本からは徳川家達。
13（火）●北海道庁調べ。凶作で道外に身売りの娘二七五六人（芸娼妓七三五人、酌婦五七五人など）。
●東京で初の「煤煙防止デー」実施。
14（水）●内地人口は六八一九万四九〇〇人と統計局。
15（木）●秋田県、イナゴ・どんぐりなどの食べ方研究のため東京市衛生試験所へ教師三人を派遣。
16（金）●桐生市で天皇の行列の先導車が順路を間違える（鹵簿誤導事件。18日内務省、知事らを処分）。
17（土）●阪大助教授・湯川秀樹、中間子仮説を発表。
18（日）●日本労働組合全国評議会（全評）結成。
19（月）●東京府、自転車税一〇銭減の一円七〇銭に。
20（火）●陸軍大尉・村中孝次、主計・磯部浅一ら青年将校をクーデター計画で検挙（士官学校事件）。
21（水）●東京市内の質屋は前年末一四二五軒と新聞に。
22（木）●血盟団事件判決。井上日召ら三人に無期懲役。
●東京鉄道局、省線電車内の禁煙実施を決定。
23（金）●新装大道場で講道館創立五十年記念祭挙行。
24（土）●鉄道省、初の流線型機関車C53形の試運転（12月1日特急「つばめ」を牽引）。
25（日）●生長の家、光明思想普及会を設立し布教開始。
26（月）●アリゾナ州で日本人二人に土地所有禁止判決。
27（火）●水産試験場が「桜色の鯛」養殖に成功と新聞に。
28（水）●高橋是清新蔵相、方針転換し増税中止を表明。
29（木）●東京・神宮で日本初のアメリカン・フットボール試合。学生選抜が横浜外国人チームを下す。
30（金）●頼母子講総数は二九万八六九六と農林省発表。

影山光洋

▲東京・銀座の歳末商戦（12月）凶作や生糸不況に悩む農村をよそに、「満州事変」以来の軍需景気に沸く東京では、各商店がこの年最後の投げ売りを敢行（写真）。衣料品や家電製品に人気が集まった。

朝日新聞社

▲藤原宮跡の発掘始まる（12月1日）民間団体・日本古文化研究所（会長・黒板勝美）が「伝説地」の試掘に着手。以後6年間にわたる調査で宮跡の全貌が明らかにされ、宮殿跡発掘調査の先駆けになった。

朝日新聞社

◀日米間に無線電話開通（12月8日）東京中央電話局の開通式（写真）に床次逓信相、広田外相、グルー米大使が出席。ニューヨークのハル国務長官と交信した。

アメリカ国立公文書館／毎日新聞社

▶ニューヨークで大反戦集会（11月23日）ヒトラーの独裁政権誕生などファシズムが台頭する中で、マディソン・スクエア・ガーデンにユダヤ人など2万人が集まり、反戦・反ファシズムを訴えた。

「歴史写真」

◀流線型の機関車登場（12月1日）世界的な流行に乗りC53形機関車を改造、特急「つばめ」を牽引した。最高時速95キロでは流線型の効果は発揮できなかったが、人気は高く、15年まで製造された。

毎日新聞社

◀着工から16年、丹那トンネル開通（12月1日）東海道本線熱海―函南間の7804メートル。午前零時4分神戸行き急行列車が通過（写真）。これで東海道本線は、御殿場回りから、熱海―沼津間を直通、40分短縮された。

昭和9年 12月

1（土）●丹那トンネル、開通。全長七八〇四メートル。
●日本古文化研究所、藤原宮跡の発掘開始。
●森永製菓、缶詰「森永ゆであづき」を発売。
●ソ連でキーロフ政治局員暗殺。大粛清始まる。
2（日）●東京エアブラシ写真工業組合設立。
3（月）●閣議、ワシントン軍縮条約の単独破棄を決定。
4（火）●小型自動車ダットサンが米国車の三分の一の価格でチリ市場に進出を計画、とチリ電。
5（水）●少年血盟団員、西園寺公望暗殺を企図し逮捕。
6（木）●衆議院、政府保有米を東北六県に交付する法案を可決（7日貴族院可決）。
7（金）●東京のデパートが「仕事が無責任」と歳末商戦のバイト学生を今年は締め出し、と新聞に。
8（土）●日米国際無線電話が開通（9日業務開始）。
●新興人絹、人造繊維・スフの量産化に成功。
9（日）●ダンスホール利用者除名と千葉の国防婦人会。
10（月）●中原中也詩集『山羊の歌』刊行。
11（火）●逓信省、航路新設など民間航空拡充計画策定。
12（水）●自転車競技の日本サイクル競技連盟創立。
13（木）●日中印の仏教家ら参加の日華仏教研究所発足。
14（金）●トルコ、憲法改正し婦人参政権を認める。
15（土）●下諏訪温泉で使いこみ清算に男三人が心中。
16（日）●山口地検、山口県営電気疑獄事件で岡田長野県知事（元山口県知事）を東京に召喚。
17（月）●農林省、新米公定価格を前年比一円高と発表。
18（火）●ラジオ聴取料月七五銭を五〇銭に値下げ決定。
19（水）●天皇臨席の枢密院本会議、ワシントン海軍軍縮条約廃棄を可決（29日米国に通告）。
20（木）●青森県、八戸市を最後に全県で廃娼が終了。
21（金）●岸田国士主唱の日本新劇倶楽部結成。
22（土）●文部省、国語審議会を設置。調査会は廃止。
23（日）●日本捕鯨（現・日本水産）、南氷洋で試験操業を行う（南氷洋捕鯨の始まり）。
24（月）●「満州国」と中国の通関協定成立。税関設置。
25（火）●白頭山探検隊（隊長・今西錦司）、京都駅を出発。
26（水）●日本初のプロ野球チーム「大日本東京野球倶楽部」（現・巨人）創立。
●対満事務局（総裁・林銑十郎）設置。外務・拓務両省の権限縮小、関東軍が行政権も握る。
27（木）●警視庁、市内四工場に長時間労働などで罰金。
28（金）●松島湾でボート転覆し二高生ら一〇人死亡。
29（土）●東京市内に救急車配備の赤十字救急所開設。
30（日）●逓信省、初の年賀電報の取り扱い開始。
31（月）●熱海海岸の自殺者は九年度八八人と新聞に。

流行語

人質を救出した勇気

「日本人ここにあり」。八月三〇日、満州（中国東北部）で日本人七人と外国人二人が抗日パルチザンに拉致された。日本軍が探索中、松花江ぞいの沼地で人質の一人、村上久米太郎が立ち上がり「日本人はここだ」と叫んだため、人質全員が救出された。村上はパルチザンに撃たれて重傷を負ったが、日本人の勇敢さを示したヒーローとしてもてはやされ、「日本人ここにあり」という映画や歌謡曲も登場した。

「明鏡止水」。二月に衆議院で、鳩山一郎文相の収賄疑惑が明るみに出た。議会で追及された文相は「明鏡止水の心」、つまり心に一点のくもりもないと言って、事実無根であることを強調したが、疑惑は晴れず、三日後、辞職に追いこまれた。以来、政治家の厚顔さに対する皮肉をこめてさかんに用いられた。

「ますらお派出夫」。東京に男性家政夫のますらお派出夫会が登場、食いつめた失業者たちに人気を呼んだ。これがきっかけで夢も希望も持てない、追いつめられた状態の男を「ますらお派出夫」と呼ぶことがはやった。

▲8月20日、刺青を保存しその美しさを競い合おうと、江戸彫勇会の面々が東京王子区「名主の滝」に集合。　朝日新聞社

ファッション

洋風後退し復古調　女性の服装に異変

近頃、女性の服装が著しく復古的になってきた。その第一は毛皮の襟巻きがめっきり少なくなり、チンチクリンの女性がまるで毛皮を運搬しているようなかっこうで歩いているのを見かけなくなった。その二は断髪が少なくなったことだ。特に中年増が淫婦のような髪型をたばねることがなくなり、みずみずしい日本髪が登場し始めた。第三に毒々しい厚化粧が見当たらぬ。これらは非常時気分で健康美が礼讃された結果、時局に敏感な婦人たちの装いに、純日本趣味が復活したものと見られる。

（「都新聞」二月一二日）

▶「幼年倶楽部」九月号から、阪本牙城作のSFマンガ、「タンク・タンクロー」連載開始。

日本漫画資料館提供

酒

サラリーマンに人気　一〇銭スタンドで一杯

洋酒の〝一〇銭スタンド・バー〟が目立ってふえた。洋酒をグラス一杯一〇銭で飲ませるもので、カフェーではウィスキー一杯が四〇銭だから、安月給の身には安さが魅力だ。〝一〇銭スタンド〟は元来、洋酒会社が洋酒を一般に広めようと始めたもので、大正一二年の大震災後、横浜にできたのが最初。九尺二間の場所さえあればOK、女給もいらないところから一杯三～四銭の儲けは確実だという。

（「話」一一月号）

結婚式

嫁入り仕度に五〇〇〇円　資産家の長女の結婚費用

昭和九年、石田公四郎さん（大阪の資産家）の長女・保子さんが結婚した。その費用は約六〇〇〇円。内訳は次のとおりである。

結納　五二〇円

小そで料　五〇〇円

松魚料　一〇円

清酒料ほか　一〇円

嫁入り仕度　約五〇〇〇円

桐小そでたんす、開きたんす、手だんす、たびだんす、文机、本箱、鏡台、針箱、下駄箱、布団、式服、略服、外出着、常着、帯、服飾品、アイロン、洋傘、鉄瓶、食器、箸ほか

御化粧料（小遣い）五〇〇円

結婚式と披露宴　三七二円余

ホテル室料　一〇円

洋食（三八人）一五二円

ワイン、酒など　四五円

勝魚箱入り（一八個）五八円

結婚式費用三七二円余りの四割を花嫁方が負担した。大学卒の初任給が七〇円という時代であったが、資産家の婚礼としてはそんなに贅沢ではなかった。

（「読売新聞」大阪版・平成四年一月三日）

CM100年

新聞CM「ヤァヤー　我レコソハ音ニキコエタ　ヨット鉛筆ナリ　しんガ強クテ木モ丈夫」（ヨット鉛筆）

▲ネーミングは舶来のヨット、絵柄は日本の戦国武将。和洋のコントラストをねらったもの。

三面記事

スリ業界の〝新しい波〟

東京・亀戸署でスリによる座談会が行われた。出席者は同署に留置中のスリ四人と、同署・井田小平警部およびスリ係刑事三人。

——一番稼ぎやすいのはどこだ？

スリ1　ヨセバ（監獄）仲間の話では、大阪と神戸の電車が最大のアジロ（稼ぎ場所）だと言いますね。東海道線や中央線など長距離列車がその次で、山手線は稼ぎやすいが、一回の稼ぎが少ないので数をこなさなきゃいけない。

スリ2　最近は長距離列車が多いです。長距離列車のスリのことを〝箱師〟と言って、最近はスリの世界でも独立して扱うようになりました。

スリ3　この間ヨセバに来たスリの話では、Iさんといって仕立屋銀次のいい子分だった人が、東海道線の中で駆け出しの〝箱師〟にやられたと評判だそうです。

——夜店はどうだ？

スリ4　地方はともかく、東京はダメです。東京の夜店の客は二分と立ち止まっていないんです。これでは我々の仕事にならない。

（「相談」一月号）

▲2月11日、森下博営業所は、「日満ケース」つき仁丹を発売した。

海外

〝奇跡の人〟のついてない最期

〔シカゴ発〕当地に住むジェームズ・クラックさん（六九）が先日、ヒザ小僧くらいの深さの川を渡っている時、心臓発作を起こし、川の中に顔面を突っこんで溺死した。クラックさんは一九一二年、有名な「タイタニック号」が氷山にぶつかって沈没した時、奇跡的に救助された一人である。その後「ルシタニア号」が魚雷に撃たれて沈んだ時も、この客船に乗っていて九死に一生を得た。さらに昨年は、三階からあやまって道路に転落したが、幸い足の骨折だけですんだ。この日は、川へ散歩に行くと言って出かけたという。

（「実話雑誌」一〇月号）

◀四月四日、小倉市宝町の武内たばこ店が、「たばこ売上コンクール」で一等賞を獲得。

武内晨一

求む

カフェーで見かけた奇抜な募集広告

最近、カフェーで奇抜な募集広告がはやっている。

「六〇歳以上の方にかぎり嫁貸したし」（旭川）

「毎土曜日、親類縁者の生娘を集めてままごとごっこ」（大阪）

「インテリ女給募集。メガネをかけたるは最も良し」（東京）

（「大正日日新聞」三月七日）

民謡

今さらどうして？「酒田おばこ」禁止

〔山形発〕山形県酒田地方の代表的な民謡で、全国にも知られた「酒田おばこ」の歌詞の一部に風俗を乱す個所があるとして、酒田警察署は歌うことを禁止した。さらに市内の飲食店主を集めて、歌詞を印刷したパンフレット類の配布の禁止と、これまで配布したものの回収を命じた。飲食店主は「命令だから従うが、この歌は観光客のほとんどが知っている。今さら禁止してどうなる」と語っている。

（「山形新聞」九月二〇日）

この年の初もの

タクシーのメーター制　大阪でスタート

●南氷洋捕鯨　一二月、日本捕鯨の「図南丸」が南氷洋で試験操業。

●自動食器洗い器　「荻野式簡易皿洗い器」という商品名で登場。ただし定着せず、主流はタワシ。

●酒の自動販売機　一一月、愛知県に設置。

●お祝い屋　新婚旅行ブームの熱海に登場。新婦のことをほめそやし、新郎からご祝儀をもらうもの。

▲1月21日、大阪府下泉南郡、犬鳴山麓（現・泉佐野市）の猪猟で、大猪2頭が射とめられた。

朝日新聞社

はやり歌

ダイナ（DINAH）

訳詞　三根徳一
作曲　H・アクスト

ダイナ　私の恋人
胸にえがくは　麗わしき姿
おー君よ　ダイナ
紅きくちびる
我にささやき　愛の言葉を
夜毎君の瞳　したわしく
思い　麗わしく
おー　ダイナ
許せよ　くちづけ
我が胸ふるえる　私のダイナ

▶立教大学出身のモダンボーイ三根徳一が、ビング・クロスビーの歌を翻訳し、ディック・ミネの名で歌ってヒットさせた。

マルベル堂提供

国境の町

作詞　大木惇夫
作曲　阿部武雄

橇の鈴さえ　寂しく響く
雪の曠野よ　町の灯よ
一つ山越しゃ　他国の星が
凍りつくよな　国境
故郷はなれて　遥々千里
なんで思いが　とどこうぞ
遠きあの空　つくづく眺め
男泣きする　宵もある
明日に望みが　ないではないが
頼み少ない　ただ一人
赤い夕日も　身につまされて
泣くが無理かよ　渡り鳥
行方知らない　さすらい暮し
空も灰色　また吹雪
想いばかりが　ただただ燃えて
君と逢う日は　いつの日ぞ

◀満州をテーマにした歌は少なくなかったが、この曲は東海林太郎が歌って大ヒット。満州でもさかんに歌われた。

福田俊二提供

世界の動き

一八の山脈を越え、一七の大河を渡り……
二万二五〇〇キロの踏破行スタート！
中国紅軍「大長征」と“毛沢東の闘い”

党の結成から一三年、蔣介石率いる国民党軍の圧倒的兵力の前に、中国共産党は最大の危機を迎える。窮地に追いこまれた紅軍は、それまで営々として築きあげた革命根拠地を放棄し、西方への総退却作戦を開始した。しかしこの一万二五〇〇キロにおよぶ苦難の「大長征」は、毛沢東の軍事的指導力を強化し、二〇世紀の奇跡として中国革命の礎となった。

▲長征開始前の紅軍主力部隊。約3万人が後に残り、陳毅、項英らの指導のもと、山岳地帯でゲリラ戦を続けた。

道なき道を昼休み夜歩き陝西省北部の呉起鎮へ

「私が『長征』のルートをたどったのは、裸の中国を見たかったからです。なにしろ彼らの歩いた行程は、都市部と違い人も通れないような中国の最僻地ですから、当時の姿がそのまま残っていました。

『長征』はまさしく敗残兵の撤退でしたが、彼らはその苦難に耐え、国中をさまよいながら社会への視野、革命への志を高めていったのです。このルートは、中国革命の栄光の軌跡です。ただ、何人もの老紅軍兵士と会ううちに、栄光の陰に隠された犠牲の大きさを肌で感じました」

こう語るのは、「長征」から半世紀余り後の一九八八年六月から八九年五月にかけて、「長征」の足跡を撮り続けた写真家の野町和嘉氏である。

▲右から、長征を終えた毛沢東、朱徳、周恩来、秦邦憲。

中国共産党の中央紅軍（第一方面軍）八万六〇〇〇人が中央根拠地の江西省瑞金を出発したのは一九三四年一〇月一五日のことであった。

一九三〇年の一二月から始まった国民党軍による紅軍殲滅作戦は、前年の一九三三年一〇月には第五次におよび、陸軍一〇〇万人、空軍二〇〇機の総動員態勢で共産党の革命根拠地に進攻。紅軍は正規軍による正面対決の陣地戦術をとったが包囲網を狭められ、三四年三月の広昌陥落後は、ほぼ回復不可能の状態におちいった。ここにいたり、共産党中央は、根拠地の放棄を決定し、三四年七月「北上抗日宣言」を発表、八月には湘贛から第六軍団の撤退が始まっていた。

そして一〇月、約三万人の残留部隊を残して、主力の第一方面軍が国民党軍の包囲網を突破して湖南省西部へ向かったのである。先頭は林彪指揮する第一軍団と第三軍団。幾重にも張りめぐらされた封鎖線を突破しながら西に進む紅軍には、民兵や農民なども加わり、約一〇万人の長蛇の列が続いた。

国民党軍の追撃は熾烈だった。紅軍は爆撃を避け、道なき道を昼休み夜歩き、地方軍閥とも戦いながら進まなければならなかった。犠牲者は相次いだ。最初の一ヵ月で二万五〇〇〇人、一一月下旬の広西省湘江の戦闘では三万人もの死者を出した。前進をはばむのは国民党軍だけではない。自然の要害、各所で行く手をさえぎる激流、そしてチベットの大草原。

「この標高三〇〇〇メートルの広大な草原越えが、『長征』最大の難関でした。飢えた兵士は、野草を食い、皮革製のベルトまで煮て飢えをしのいだのです」（野町氏）

そして、目的地である陝西省北部の呉起鎮にたどり着いたのは翌三五年一〇月二〇日。まる一年にわたり、一一の省を通過、一八の山脈を越え、一七の大河を渡り、六二の町を攻略しながら一万二五〇〇キロを踏破したのである。瑞金を出発した時に八万六〇〇〇人を数えた第一方面軍の兵士は、一〇分の一にも満たないわずか七千余人になっていた。

毛沢東が遵義会議で党中央を厳しく批判

「長征」は毛沢東が党内での指導力を固めていく過程でもあった。

「革命根拠地はもともと毛沢東たちが切り拓いたものでしたが、モスクワ帰りの指導者たちが、現場の実情に合わない命令を下し、毛沢東を追い落としたため、戦闘は敗北を繰り返しました。毛沢東は反撃のチャンスを狙いながら、長征の隊列に加わったのです」

こう語るのは、横浜市立大学の矢吹晋教授である。

外から見たNIPPON

建築家タウトが火葬場に託して論じた日ソの比較

——佐伯　修

この年の六月五日、東京では、東郷平八郎元帥の国葬がとり行なわれた。前年の五月から日本に滞在中の、ドイツの建築家ブルーノ・タウト（一八八〇〜一九三八）は、この日、散歩がてら、宿舎に近い代々木西原町の火葬場を見学した。

「金色のいかもの装飾でごてごて飾りたてた（仏式の）霊柩車、そのうしろに遺族縁者を乗せた数台の自動車。火葬場の前庭には簡素な休憩所、さっぱりした気持のよい建物だ。（中略）

白い絹布で蔽われた清浄な棺は、そのまま爐室の中へ静かに推し進められ、彫刻で飾られた外扉が閉められると遺族達は恭しく礼拝して死者に最後の別れを告げる、——火葬場の係員も（それから私も）。やがて係員が蠟燭と香爐とを載せた小卓を扉の前に据え、香に火を点ずると、遺族達は低い声で経文の一節を誦んだり或は称名しながら香爐にくべる（傍には鮮やかな緑衣の法衣をつけた坊さんが端然と立っている。本来の葬式はもう自宅なりお寺なりで済んでいるのである）。しめやかな光景だ。焼香が終ると一同はいったん休憩所に引上げて、お茶を飲んだり煙草を喫ったりしている」（『日本　タウトの日記』篠田英雄訳）

毎日新聞社

▶昭和一一年離日、一三年亡命先のトルコで死去。

日記に、このような火葬場の情景を記した後、タウトは、「建築そのものは至って簡素」で「老松の上に高い煙突が聳えているので、僅かにそれと識られるにすぎない」施設」と評し、日本の火葬場を、「極めて自然なつつましい施設」と評し、「人間の皮袋の終りを処理するにいかにもふさわしい建築である」と賞讃している。

それと対比して、タウトは、一九三二年から三三年にかけて、「大モスクワ計画」に協力するため、ソ連に招かれた際に出会った「ソ連の死者にふさわしい火葬場建築」の「ひどく仰々しい、まるで劇場のような設計案」を、「頭の中ででっちあげた『幻影』であり、現実の感情とはまるきり縁のない妄想にすぎない、——醜悪のきわみというべきだ」と徹底的に酷評している。

タウトの、このソ連の建築に対する幻滅ぶりは、クロポトキンなどを愛読していた彼の、社会主義に対するユートピア的な期待感の裏返しであり、そんな彼は、当時、ナチス政権の祖国へは帰れぬ身だった。

なお、タウトには『日本美の再発見』など、いくつかの日本関係の著作があるが、この年は、その第一弾『ニッポン』の日本語版が刊行されており、この日の日記の冒頭には、その売れ行きの好調ぶりが記されている。

▲少数民族への対処法を明示した朱徳の布告。

その機会は、「長征」途上の一九三五年一月一五日から貴州省遵義で開かれた、中国共産党中央政治局拡大会議でやって来た。出席者は秦邦憲、張聞天、周恩来、朱徳、劉少奇、毛沢東、鄧小平ら二〇人を数えた。席上、毛沢東は、国民党の第五次殲滅作戦以来の党中央の軍事路線を厳しく批判、党の指導的立場にあった秦邦憲の責任を追及した。

それまでの紅軍はソ連赤軍将校リトロフと秦邦憲によって指導されていたが、その路線は、敵を攪乱させる運動戦ではなく、陣地戦を展開することにあった。

対する毛沢東の主張はゲリラ戦術であった。毛沢東は紅軍が弱小で敵が強大であることを前提に、敵軍が包囲討伐を進めれば後退し、逆に敵が撤退すれば追撃、それを何度か繰り返すことで、軍と根拠地を拡大するというものであった。会議は三日間、壮絶な激論が続いたが、周恩来が毛沢東を支持したことで決着、毛沢東は中国共産党主席に就任した。

そしてその後、紅軍第一方面軍は国民党の討伐軍を眩惑させるため、辺境の地に分け入り、迂回作戦や陽動作戦を展開しながら、雲南省を経て北上し、目的の呉起鎮に到着することができたのである。

やがて呉起鎮には、湖北・湖南・四川・貴州根拠地からの第二方面軍、毛沢東の「北上抗日」に反対し一時戦列を離れていた第四方面軍も合流し、長征が終了したのが一九三五年一〇月二六日、紅軍は約三万人の兵力となった。

毛沢東は一九三五年末、「『長征』は宣言書であり、宣伝隊であり、種まき機であった。やがて実を結び、将来かならず収穫されるであろう」（「日本帝国主義に反対する戦術について」）と述べた。

その毛沢東が天安門の上で中華人民共和国の成立を宣言したのは、一九四九年一〇月一日。「長征」という苦難を乗り越えてからわずか一四年後のことである。

毛沢東（1893〜1976）
中国の政治家。一九二一年中国共産党創立大会に参加、二三年党中央委員。三四年に長征を開始し、三五年、党軍事委員会主席となる（没年まで）。

▶遵義会議が開かれた軍閥・柏輝章の邸内。なぜ敵を撃退できなかったか、激しい議論が闘わされた。

往きて還らぬ

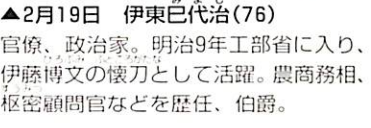
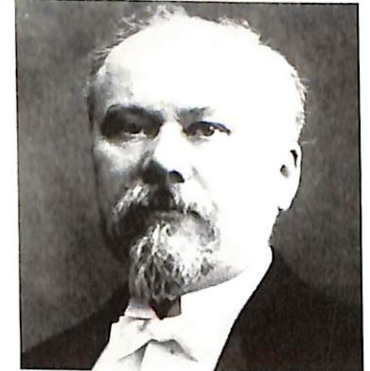
▲10月16日　11代片岡仁左衛門(76)
歌舞伎俳優。初代中村鴈治郎と並んで人気を博し、明治40年11代目を襲名。枯淡の老役は天下一品と言われた。

▲11月8日　6代尾上梅幸(64)
歌舞伎俳優。明治36年6代目を襲名、名女形として活躍。あたり役「切られ与三」のお富など。著書に『梅の下風』。

朝日新聞社

▲10月6日　初代桂春団治(56)
落語家。上方落語界のリーダー。にぎやかで型破りな芸風で人気を集めた。奇行、女性遍歴でも知られる。

▲3月10日　武藤山治(66)
政治家、元鐘紡社長。大正12年衆議院議員。昭和7年「時事新報」社長となり、帝人事件を告発し、射殺された。

▲7月4日　マリー・キュリー(66)
仏の物理学者で、原子核物理学の先駆者。1903年に夫とノーベル物理学賞、1911年単独でノーベル化学賞受賞。

▲2月19日　伊東巳代治(76)
官僚、政治家。明治9年工部省に入り、伊藤博文の懐刀として活躍。農商務相、枢密顧問官などを歴任、伯爵。

▲10月15日　R・ポアンカレ(74)
仏の政治家、1913年大統領に。第1次大戦後は首相兼蔵相として増税・節約につとめ、財政建て直しを行う。

▲8月10日　R・B・トイスラー(58)
米の宣教医。1900年に来日し、1933年東京・築地に聖路加国際病院を開設。貧困者の救済や看護婦養成に尽力。

▲2月24日　直木三十五(43)
小説家。大正13年「仇討十種」で注目され、昭和5年「南国太平記」で流行作家に。死後、直木賞が設けられた。

▶9月1日　竹久夢二(49)
画家、詩人。独特の美人画と抒情詩で多くのファンを魅了した。代表作『夢二画集春の巻』、詩集『どんたく』など。

◀10月10日　高村光雲(82)
彫刻家で、木彫の第一人者。明治一〇年内国勧業博で「白衣観音」が最高賞受賞。詩人の高村光太郎は息子。

▲3月1日　服部金太郎(73)
服部セイコーの創設者。明治14年服部時計店を開店。外国製品に比肩する精巧品を製造、セイコーを世界に広めた。

ミニ事典

1934年のキーワード

加州外国人土地法

米カリフォルニア州が制定した排日目的の法律。一九一三年（大正二）の日本人の土地所有を禁じた第一次外国人土地法（排日移民法）と、一九二〇年のこれを強化した第二次外国人土地法の総称。これらの法律は合衆国憲法に違反するとの在米日本人の訴えに、この年の一月八日、連邦大審院は訴えを認めたが、排日運動が弱まることはなかった。

栄養士会

栄養学者・佐伯矩が栄養士育成のために創立した栄養学校の関係者が、大正一四年に作った学会。三月二五日、研究発表の場として「栄養士会会誌」を創刊。またこの年から日本医学会への参加も認められた。大正七年、栄養改善指導で、兵役検査が全国最下位だった群馬県の成績向上に成功、以来栄養への認識が高まり、栄養士による学校給食や講習会などを通じての指導が広まっていた。

石油業法

艦船や航空機などの軍需用として必要不可欠の石油を、安定して確保するために定めた法律。三月二八日公布。国内の石油精製業を外国資本から守り、その乱立を防止するため石油の精製・輸入業務を許可制とすること、業者は一定量の貯油を義務づけられ、政府が購入を希望する時はいつでもそれに応じなければならないことが定められた。

上方漫才

歌や踊り、軽口などさまざまな芸を見せる伝統的な関西風「色物漫才」の土壌に育った寄席演芸。多く二人一組で、昭和五年頃から横山エンタツ・花菱アチャコが「しゃべくり」だけで笑わせる新しいスタイルを生みだした。彼らはこの年四月二五日に吉本興業が東京新橋演舞場で開催した「特撰漫才大会」に出演、その「早慶戦」が大いに受け、上方漫才の魅力を全国に広めた。

レコード検定

改正出版法施行により、八月一日から実施された内務省の検閲強化。この改正で、レコードも出版法が適用されるようになった。明治二六年（一八九三）制定の旧法では、「皇室の尊厳冒瀆」「安寧秩序の妨害」「犯罪の扇動」が、行政処分の対象だったが、刑事罰の対象となり、言論統制は一層強化された。

▶八月一日、内務省の検閲主任の前に新レコード四〇枚が持ちこまれた。

新興財閥

三井・三菱・住友など明治以来の旧財閥に対し、「満州事変」前後の軍需工業発展の過程で、軍部と結んで台頭してきた財閥。六月一日に自動車製造を日産自動車と改称して、財閥の基幹とした鮎川義介が率いる日産が典型。このほか野口遵の日窒、森矗昶の昭和電工、大河内正敏の理研など。新分野への進出と技術開発は旺盛だったが、傘下に金融機関を持たなかったため、絶えず資金調達に苦しんだ。

飯米飢饉

米価高騰のため農家が飯米を買えない状態のこと。地方農家の飯米用米穀払い下げ要望に対して、六月二一日、帝国農会が発表した調査では、全国で一・五〜三割の農家が「飢饉」の状態にあった。前年、米穀統制法が施行されると、凶作続きで負債を抱える農家は換金を急いで収穫米を売り急ぎ、自家用飯米まで売ることも珍しくなく、これが「飢饉」をもたらす一因となった。

重臣会議

最後の元老・西園寺公望を補佐し、後継首相選定を行った会議。七月四日、初めて会合がもたれ西園寺のほか、斎藤実・高橋是清ら元首相、枢密院議長・一木喜徳郎、内大臣・牧野伸顕らが参集、岡田啓介を後継首班に決め、西園寺が天皇に奏薦した。以降途切れながらも慣例化し、昭和一五年の西園寺死去後は、かつての元老会議の機能を受け継いだ。

▶新首相を決める初の重臣会議に出席するため、東京駅に着いた西園寺公望。

朝日新聞社

パパ・ママ論争

日本精神作興を掲げる松田源治文相が「近頃パパだのママだのという言葉が流行しているが、日本古来の孝道がすたれる。お父さん、お母さんと呼ぶべきだ」と言ったところから起こった是非論争。八月二九日に文部省がパパ・ママ禁止令を出すとの噂が流れ、一層話題となり、社会大衆党委員長・安部磯雄の「とやかく言うのは見当違い」など、賛否両論が新聞紙上をにぎわした。

陸軍パンフレット問題

陸軍統制派が、一〇月一日に発刊した五〇ページ弱のパンフレット「国防の本義と其強化の提唱」をめぐって起こった学者、政党の激しい反発。国家体制を総力戦に即応させうる高度の国防国家にしなければならないとする軍部の主張に対し、美濃部達吉らが「著しく好戦的」と批判、政友・民政両党も軍の政治関与と非難した。しかし、陸軍のこの方針は着々と実現しつつあった。

▶新聞班名だが実際は軍務局の池田純久少佐らが作成、一六万部発行された。

キーロフ暗殺事件

スターリンの側近でレニングラード・ソビエト議長キーロフが、一二月一日に暗殺された事件（実際には治安当局がかかわっていた）。トロツキー派の反革命行為とされ、二一日に一〇三人が粛清され、さらにジノビエフ、カーメネフら首脳も反対派とみなされ次々に処刑された。これらは後に多くの人々が対象となる「スターリン大粛清」の先駆けになった。

東北振興調査会

昭和六年に続き、冷害のため凶作におちいった東北地方に対し、救護施策を審議するため、一二月二六日、官制公布により設置された内閣直属の諮問機関。会長は首相・岡田啓介。貴衆両院議員各五人と東北各県知事、識者らを構成員とし、東北に適した農業経営を行うことや、農閑期でも働けるように地元に工場を設立するなどが審議、答申された。

週刊YEAR BOOK／日録20世紀 1934

CONTENTS

●編集
講談社総合編纂局
アート・ディレクター 山口至剛
表紙デザイン 山口至剛デザイン室（茂村巨利）＋渡邉裕
本文レイアウト デザインオフィス八起き
編集協力 有エービーシープレス 株カマル社 株コミュニケーシ
ヨンハウス・ケースリー シド・プロ 有マックス 有マライカ
飯田守 小原伸夫 鍵和田良輔 小松邦宏 佐野長成 張替政展
藤森雅弘 結城順一 吉田忠正

●写真協力
影山光洋 影山智洋 佐藤英明 佐藤嘉洋 高千穂ひづる 武内最
一 但馬一憲 野沢正 服部昌一郎 福田俊一
朝日新聞社 共同通信社 「芸術新潮」 国際フォト 中日新聞社
Popperfoto 毎日新聞社 ユニフォト・プレス 読売新
聞社 ROGER-VIOLLET
新日鐵八幡製作所 東京急行電鉄 日産自動車 能登印刷 松坂屋
マツダ映画社 マルベル堂 三菱電機
アメリカ国立公文書館 大宅壮一文庫 川喜多記念映画文化財団
杉野学園ドレスメーカー学院 中国文化省 日本カメラ博物館 日
本近代文学館 日本漫画資料館 防衛研究所図書館

本誌収録写真につき、所在不詳などのため事前連絡ができないものがありました。お心当たりの方は、編集部までご一報ください。

週刊YEAR BOOK 日録20世紀 1934
●「室戸台風」襲来！
1月27日号
第2巻第3号 通巻46号
編集人 近藤達士
発行所 株式会社講談社
郵便番号112-8001 東京都文京区音羽2-12-21
定価560円

雑誌 23704-1/27
Ⓛ-2001/1/1
T1123704010560

印刷 凸版印刷株式会社 製本 本村製本株式会社